

心の糧

十二使徒評議員会補助 ジェームズ・A・カリモア

私たちの信じているように、今日この教会の頭には生ける 予言者がおり、主はこの教会を導くために、この予言者を通 して、みこころをあらわしておられる。私たちは、十二使徒 評議員会会員をも、予言者、聖見者にして啓示を受ける者と して支持する。彼らも、教会を守護し、教会の秩序を維持 し、キリストの特別な証し人となるべく、神より選ばれ、霊 感を与えられた人々である。ある特定の地域を管理するため に、神の代表者として指名されたステーキ部長や監督、また 伝道部長や支部長を支持すると言っておきながらその勧告に 従わない人は、自ら、福音の祝福を担み、個人にもたらされ る祝福や指導を拒んでいるのである。教会の指導者の勧告 は、通常、福音の律法の繰返しであり、教会の教えに従い、 パプテスマの水に入ったとき、また主の宮居に入ったときに 交わした契約に忠実であるように励ます激励である。

こうした勧告に従えば、最終的には幸福を得ることができる。だが、勧告に不従順であれば、損失をこうむるだけである。その結果、しばしば、人は他人のあら捜しをしたり、教会の活動から遠ざかったり、戒めを破ったりして、ついには信仰を失うに至るのである。

今日,与えられる勧告の中で最も大切なものは,主が教会を導くために絶えず与えられる指導に従順に従い,左右どちらの極端にも偏ることなく,川の中心水路を流れるように勧める勧告である。

この証を皆様の心の中に残すべく, イエス・キリストの御 名によって祈る。アーメン。

聖徒の道 1973

もくじ

今月の聖徒の道	
愛し合いなさいN・エルドン・タナー…	192
教会幹部に従いなさいアルマ・P・バートン…	195
知恵の言葉ー独特な民の目じるし	
エドウィン・B・ファーメッジ…	198
神の王国を出で行かせたまえハロルド・B・リー…	200
宇宙から送られてくる警告N・エルドン・タナー…	203
なぜさらに末日聖徒イエス・キリスト教会が	
必要なのかマリオン・G・ロムニー…	208
歓喜	212
がちょうと少年ビビアン・バーソロミュー…	213
ダニエルメアリー・L・ラスク…	216
小さなお友だちへハロルド・B・リー…	218
おもちゃばこ	220
「主は生けりと知る」…ブルース・R・マッコンキー…	221
人間をすなどる漁師として	
ジェームズ・ E ・ファウスト…	223
現代に語りかける旧約聖書	
W・クレオン・スカウセン…	225
神の御手に使われる器レックス・D・ピネガー…	227
ジョセフ・フィールディング・スミス	
ー福音の学徒…レオン・R・ハートショーン…	228
3 つの誓約L・トム・ペリー…	233
敷い主に仕える $O \cdot \nu$ スリー・ストーン…	233
質疑応答	234
モルモンユーモア	235
ローカル・ニュース	236

今月の表紙

第 142 回半期総大会で支持の挙手をする大管長会 J・M・ヘズロップ撮影

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

ハロルド・B・リー N・エルドン・タナー マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

スペンサー・W・キンボール ハワード・W・ハンター ゴードン・B・ヒンクレー エズラ・タフト・ベンソン トーマス・S・モンソン マーク・E・ピーターセン ボイド・K・パッカー デルバート・L・ステイプレー リグランド・リチャーズ マービン・ J・アシュトン ヒュー・B・ブラウン ブルース・R・マッコンキー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ (内務伝達部長), ジョン・ E・カー(配送・翻訳部長), ドイル・L・グリーン(教 会誌編集主幹), ダニエル・H・ラドロウ(教育資料担当 主幹)

統一誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木沼修一

ローカル編集

高木まりゑ

ステーキ部・伝道本部住所

東京ステーキ部 〒107 東京都港区北青山3の6の9 **TEL** (03-407-2465)

大阪ステーキ部 〒560 大阪府豊中市岡町1の2の3

TEL (068-52-3734)

〒063 札幌市中央区北2条西24の245 日本東伝道本部

TEL (011-611-3697)

〒106 東京都港区南麻布5の8の10 日本伝道本部

TEL (03-442-7438)

〒657 神戸市灘区篠原本町4の6の28 日本中央伝道本部

TEL (078-88-2712-3)

〒810 福岡市中央区平尾浄水町46 日本西部伝道本部

TEL (092-52-6084)

今月の聖徒の道

今月は、支持を受けた最初の総大会での、大管長会の説教 を特集しています。(大管長会は、これに先立ち1972年8月 のメキシコシチーでの地区総大会で支持を受けた。) また同 じ大会で支持を受けた新しい教会幹部の説教も掲載しまし

中味のない機関誌はその機能を果たしません。私たちは聖 徒の道に関して読者の皆さんの必要や希望を知りたいと思っ ています。これを満たす最善の方法は、読者の皆さんから寄 せられる手紙です。特におもしろかった記事、また今後掲載 してほしい事柄を知らせてください。誤りの指摘でも結構で す。もちろん応じられない要求もあります。例えば教会の方 針や教義について質問を受けることがあります。残念ですが 私たちはそのような質問に答えることができません。聖徒の 道が作られた目的と異なるからです。管理する人々の霊的な アドバイザーとして召されているのが監督であり支部長で す。疑問点や問題が生じたときには、彼らのもとに相談に行 かなければならないのです。私たちはこの職に召された人を 支持し、確立された神権系統を利用すべきでしょう。また聖 典を研究し、福音に関することをできる限り学ばなければな りません。

文通のための住所紹介コーナーを設けるようにとの希望が しばしば寄せられます。確かに多数の方に喜ばれることとは 思いますが、十分に考慮しました結果それを採用しないこと になりました。

来月の聖徒の道

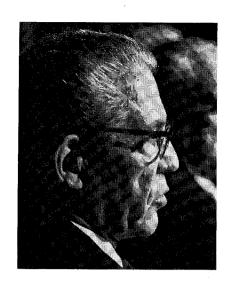
次号のゴードン・B・ヒンクレー長老によるハロルド・B ・リー大管長の半生をもって、大管長シリーズが完結しま す。またヒュー・B・ブラウン長老によるN・エルドン・タ ナー副管長の物語,同じくスペンサー・W・キンボール長老 によるマリオン・G・ロムニー副管長の物語も掲載する予定 です。

聖徒の道5月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 東京都港区南麻布5-8-10

配 送 東京ディストリビューション・センター 東京都港区南麻布5-10-25

定 価 年間予約 1,300円 1部 130円



メッセージの主題を捜すにあたって 私は今日多くの不穏な状態と不幸とを 生み出している世界の状勢を考えて, こう自問してみた。平安を得,幸福に なるには,こういった状勢に対し,変 革を加えなければならないが,そのた めに最も必要なものは何であろうか。

それに対する私の答えは、いつしか主イエス・キリストの教えにあるふたつのメッセージに集約されていった。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」そして「愛し合いなさい」のふたつである。

今日,個人に,地域社会に,国家に, そして全世界に悲劇と不幸を引き起こ しているあらゆる問題を解決する鍵が このふたつの教えの中に見いだせるの である。このふたつの教えを受け入れ, それに従って生活することにより,私 たちは,現世では,永遠の幸福を得る ことができるのである。これこそ私た ち皆が,追い求めるべき祝福なのであ る。

律法学者がイエスに, 「先生, 律法 の中で, どのいましめがいちばん大切 なのですか」と尋ねたとき, イエスは 答えられた,「『心をつくし, 精神をつ くし, 思いをつくして, 主なるあなた の神を愛せよ』。

これがいちばん大切な,第一のいま しめである。

第二もこれと同様である。『自分を 愛するように、あなたの隣り人を愛せ よ』。」(マタイ22:36-39)

黄金律を適用しながら「神を愛し、 互いに愛し合うよう」命じられたことを決して忘れないようにしようではないか。私たちは隣り人を愛さずして神を愛することはできないのであり、また、神を愛さずして、真に隣り人を愛することもできないのである。これは万人にあてはまる。もし私たちひとりびとりが、この律法を守るなら、他人について心配する必要は全くなくなるわけである。

救い主が、人生で最も大切なものとして強調されたこの愛を持ちたいなら、まず家庭から始めて、それから日常生活に及ぼさねばならない。愛は家庭から始まる。お互いのために犠牲を払いなさい。お互いに幸福になるようにしなさい。

もし、父親と母親の間に愛があるならば、両親と子供の間にも愛があり、

また子供たちの間にも愛があるであろう。家庭において、礼儀正しく、親切で、思慮深く、ていねいであることの価値を、強調し過ぎるということはない。家族のうちに真実の完全な愛があれば、「両親を敬え」とか「盗むべからず」とか「殺すべからず」とか「偽証をたてるべからず」などといった他の戒めに気を配る必要もなくなるであろう。自動的に守られるからである。

救い主が与えられた黄金律を熱心に 取り入れようと努めながら人生を経験 していけば、私たちはこれまで以上の 喜びを味わい成功を修め、また満足を 得ることであろう。また他の人々の きることであるう。また他の人できる と天父の「みたま」とを享受できる あろう。常に他の人々、つまりののだけを捜そうとするならば、 して見えてくるであろう。反対に、人々 に見えてくるであろう。反対に、れて に見えてくるであるう。反対に、れて がわっていれば、同じ人でも、ひどく つまらない存在に思われてくるであるう。

私が人々の間を旅するにつれ、人間 には、自分の弱点を過小評価し、他人

大管長会メッセージ

愛し合いなさい

N・エルドン・タナー 第一副管長

の弱点を誇張するという性癖のあることを,確信するようになった。讃美歌に, このように歌っているものがある

「おのが悪しきとがを

努めて知るべし

人を責むるとき

おのれを正すべし

同じとがあるとき

われには緩くし

人には厳しく責めて

わが弱さを……

よき模範示せば

人は導かる

さればまずわれを

修めてのち人ぞ」

(讃美歌第107番)

人格者は、決して人をみくびったり、 人の弱点を誇張したりしないことをい つも忘れないようにしよう。事実、偉 大な人物は、隣り人の成功を喜び、福 祉に関心を示すものである。特に宗教 や政治について論じる際、他人の信念 や主義をののしりがちである。公職に ある人が攻撃され、名誉を傷つけられ、 また侮辱的な言動を加えられて家族ま でが悩むといったことがそこここに見 られるが、これは耐えられないことで ある。

選挙運動でも、泥試合を避けて、高い水準で論じ合っていれば、どれだけ良くなることであろうか。事実、人々は、ある主義の上に立ちつつ、個人の中傷を避ける選挙運動員に好感を抱くものである。あらゆるものに反対することより、あるものを支持することの方が、どれだけ良いことだろうか。

黄金律を取り入れようとするならば、愛には恨みや悪意を抱く余地などないということを理解しなければならない。こういった思いは、魂を腐らせ、愛を締め出すばかりである。また恨みや悪意を抱くことは、自分自身を傷つける結果に終わる。うわさ話をすればその人を傷つけ、時には破滅に陥れる

こともある。同僚や友人,隣り人から 何か盗んだり,肉体的に傷つけたりす ることなど夢にも思っていないかも知 れないが,その人の名前を傷つけるこ とにより,それ以上の悪事を行なって いるのである。

様々の人々一店員、会社の秘書、クラブの会員、教会や国家で種々の仕事に携わる人々一がうわさ話をして、互いに中傷し合ったり、また、他人を見くびれば自分の弱点が過小評価できるし、見過ごしにできると思って、他人のあら捜しに身をやつしたりしているのを見るのは、別に目新しいことではない。

私は、アブラハム・リンカーンの言葉に全く同感である。彼はこう言っている。「神がこの世を治めておられる。神が私たちのなすべきことを知っておられ、そしてそれを果たすことが神を喜ばせることを、私は、完全に信じている。このことに心を留めない人は、決して喜ばれることはない。この聖なる存在者の助けなくして、私は成功を収めることができない。しかし、その助けがあれば、失敗はありえない。」

私の知りえたあらゆる人々,私が住 みついたあらゆる地域社会,本から知 り,また訪問して知ったあらゆる国々, それらは皆、私に疑いようのないひと つの確信を与えてくれた。それは、人 々が神を受け入れ、神の戒めを守って いる所では、皆幸福で、満たされてお り、成功を収め、また安全であるとい うことである。今日の世界に顕著な、 不安の原因を造り出しているのは、神 を受け入れない人々であり、国家であ る。

今, クリスチャンと自称している人々が, 日常生活にキリストの教えを取り入れさえすれば, これらの悪を正すこともできよう。私たちの生活から偽善を追い出し, 真実のキリスト教徒となろうではないか。

もしおとなが正直で、真実で、福音 の教えに従って生活し、正しい模範を 示すなら、若者たちのことは心配する 必要がない。私はそう心から信じてい る。私たちの行ないが、人の生活に影 響を与えて、その結果福音の真実性や 数いの計画に疑問を抱かせたり、永遠 の生命と昇栄とを享受できるようにイ エスが払われた偉大な犠牲などを、い ぶからせたり、疑問を抱かせたりする としたら、私たちは、決して心に満足 を感じることはできないだろう。その 責任は重大である。

私たちは各自ことで、神を求め、神の戒めを守って義しく生活すると誓おうではないか。そして、両親や隣人、教師、また交わった人々の行ないを見たので、こんな悲惨な結果、もしくは不幸、失敗などを引き起こすようなことになったのだと言い訳をすることがないように、義しく生活しようではないか。そして、善のために偉大な影響力を及ぼすことができるように、また世の光となるように生活しようではないか。



教会幹部に従いなさい

アルマ・P・バートン

あるとき、ウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のような話をした。教会の初期の時代に、ある指導者がオハイオ州カートランドで開かれた大会で、兄弟たちに神託を受ける神の生ける予言者の問題に関して、次の様に所信を述べたというのである。

「今あなた方は,,目の前の聖書,モルモン経,教義と聖約の中に,神の御言葉を与えられています。書かれた神の御言葉がある以上,啓示を与える者は,これらの聖典にとどめるべきであります。」

この人の話が終わると,予言者ジョセフ・スミスはブリガム・ヤング十二使徒会長の方を向いて,言った。

「『ブリガム兄弟,私は君に説教壇に立って,神託を受ける生ける予言者と,書かれた神の御言葉に関する君自身の見解を話してもらいたい。』ブリガム兄弟は,説教壇に立つと,聖書を取り上げ,そしてそれを下に置いた。モルモン経を取り上げると,それもまた下に置いた。次に教義と聖約も取り上げて,それも自分の前に置いた。そして言った。『私たちには,世の初めからほぼ私たちの時代に至る神の御業について書かれた神の御言葉があります。だが,これらの聖典は,今私たちの時代の予言者や聖なる神権を保持する人が語る言葉ほどには,直接今の私たちに,神の御言葉を伝えてはいません……』。ブリガム兄弟の話が終わったとき,ジョセフ兄弟は会衆に向かって言った。『ブリガム兄弟があなた方に語ったのは主の御言葉です。真理であります。』」。

キリスト教世界の聖職者たちは、神は天から語るのをやめられ、御姿を人に現わされることをやめられたと宣言した。 こうした主張のなされるひとつの原因は、ヨハネが黙示録に 書いた聖句を誤って解釈しているからである。そこにはこう 書いてある。

「この預言の書の言葉を聞くすべての人々に対して,わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば,神はその人に,この書に書かれている災害を加えられる。

また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。」(黙示22:18, 19)

ョハネの宣言には、非常な力があり、否定のしようがない。だが、読者は、ヨハネの宣言が黙示録についてだけ言っているのであって、ヨハネの書いたその他の書や、聖書中の他の著者のことを言っているのではないことを忘れてはならない。

ョハネが前記の言葉を記したとき、新約聖書は、まだ1冊の本に編集されてはいなかった。ばらばらの書であったのであり、あとから、私たちが今知っているような新約聖書になったのである。ョハネの言葉には、黙示録以外の聖典にまで言及しようなどという意図はまるでなかったのである。

神託を受ける生ける予言者の導きが必要なことは, ウッドラフ大管長の言われた次の言葉によく述べられている。

「私たちには聖書があり、モルモン経があり、教義と聖約がある。私たちはそれらを読みとおし、また私たちに与えられた他のすべての啓示もすみからすみまで読破するかもしれない。だが、それでも私たちを四六時中導くのに充分とは言えないだろう。聖典は、私たちの義務をほんの概略しか記していない。私たちは、神託を受ける生ける予言者によって導かれなければならない。」⁸

主は昔、御自分の僕たちに御言葉を啓示された。そして今でも、現在の予言者を通し、そのみこころを啓示しておられ

る。

予言者ジョセフ・スミスはこう記している。「われらは,すべて神のこれまでに啓示したまいしこと,すべて今啓示したもうことを信じ,なお今より後,神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。」(信仰箇条第9条)

これは、神から絶えず啓示があることを宣言し、また私たちがこれまで啓示を皆受け入れ、今後も神の息子、娘のために必要とされる新しい啓示をも待ち望んでいることを示している。

予言者ジョセフ・スミスは, もし神が天から御自身を現わされるのを止めたと言う者がいるなら, それまで予言者と使徒によって与えられたもの以外に新しい啓示が必要となろうと教えた。

ハロルド・ \mathbf{B} ・リー大管長は、私たちの時代に絶えざる啓示があることに関して、以前ある話をされた。

「私は伝道中、伝道部長と一緒にカーセージの牢獄へ行ったことがある。予言者とその兄ハイラムが殉教したという場所に来て感動した私たちは、伝道部長に、殉教に至ったできごとを詳しく話してくださるようお願いした。当時青年であった私は、伝道部長の言われた次の言葉に深い感銘を覚えた。『予言者ジョセフ・スミスが死んだとき、多くの人々が事実上ジョセフと共に霊的に死んだと言える。ブリガム・ヤングが死んだときにも、多くの人々が彼と共に霊的に死んでいった。ジョン・テイラーのときも同様であり、大管長が死去するたびにいつも同じことが起こったのである。』」4

大管長が地上において神の代表者としての務めを終えられるとき、聖徒は、主が新しく指名される予言者、聖見者にして啓示を受ける者に目を向けなければならない。この教会を管理してきた人には、皆、ある特別な果たすべき仕事があった。そして、この使命が果たされると、主はその予言者をみもとに呼ばれるのである。ひとりの大管長が亡くなれば、救い主は、新しい予言者、大管長を通して、教会のとるべき方向を明らかにされるのである。

主が予言者たちに与える啓示に関して、ジョン・ティラー 大管長は、教会には会員のその時々の必要に対応できる、新 しい啓示が絶えず必要であることを指摘した。大管長はこう 言っている。

「……私たちには、生ける木一生ける泉一天上の生ける神権から生じ、地上の生ける神権から生ずる、生ける英智が必要である……。アダムが初めて神から交通を受けたその時代から、ヨハネがパトモス島で啓示を受け、ジョセフ・スミスの前に天が開けたその時代に至るまで、教会や個人個人が置

かれた特殊な状況に即応する新しい啓示が、常に必要とされた。アダムに与えられた啓示には、ノアの箱舟を建造するようにとの指示は含まれていなかった。ノアに与えられた啓示も、ロトにソドムを捨てるようにとは言っていない。また、これらの啓示のうち、ひとつとしてイスラエルの子らにエジプトを脱出するように指示したものはない。それは皆、それぞれのために与えられた啓示だったからである。イザヤにしても、エレミヤ、エゼキエル、イエス……ヨハネにしても、そしてジョセフ・スミスにしても同様であった。そして私たちにも独自の啓示が与えられなければならない。そうでなければ、私たちは破滅を免れないだろう。」5

「兄弟たちよ, 教会の大管長から目を離さないように しなさい。仮に大管長があなた方に何かまちがったこ とをするよう命じて, あなた方がそれを行なうことが あったとしても, 主は, その点であなた方を祝福して くださるであろう。だが心配する必要はない。主は決 して御自分の代弁者が民を誤って導くのをそのまま見 ているようなことはなさらないからである。」

ジョセフ・F・メリル長老も、聖典と教会幹部の兄弟たち に従うよう勧告している。

「教会の人々は、自分がどうすればよいかを知るための安全な指針が欲しいと思っているだろうか。それなら、こうすればよい。大管長会の指示と常に調和していなさい。大管長の教えと勧告を受け入れ、それに従いなさい。大会ごとに、私たちは挙手によって大管長を、予言者、聖見者にして啓示を受ける者として支持している。支持の挙手をしておきながら、その勧告に反する行動をとったら、矛盾していると言えないだろうか。大管長に反対しながら、自分は主に仕えていると信じるほど単純な人間がいるだろうか。もちろん、大管長が絶対誤りを犯さないと言うのではない。大管長も決してそんなことを主張しない。だが、大管長が公の立場で、教会の会員にその義務を教え、勧告するとき、主を喜ばせたいと思う者はだれも、決して大管長の勧告に反対することのないようにしていただきたい。

あなた方を助けたいと思う気持から、ひとつの鍵をお話しよう。心の中に疑いが生じたら、へりくだってひざまずき、心を開いて、心底から主のみこころを行ないたいと、熱心に祈りなさい。……やがて、胸の内を喜びと満足感で満たす答えが得られるだろう。それこそ神の答えである。この答えに従順に従うなら、常に大管長の言われるとおり、*行なうこと

であろう。そうすればあなたは安全な所にいるのである。」6 オルソン・プラット長老は、神託を受ける生ける予言者を 拒んだ人が、実際、神が昔与えられた啓示をも拒絶したこと を例証し、もし私たちが神託を受ける生ける予言者に従わな いなら、書かれた言葉によっても罰せられるであろうと指摘 している。

教会の標準聖典や、昔の予言者の言葉も勤勉に研究すべきではあるが、私たちは、同時に、新しい啓示を与え、必要な折には教義の新しい解釈を与え、教会が今日の使命を遂行するにあたって新しい聖句と教義を与える、生ける予言者、聖見者にして啓示を受ける者にも、目を向けるべきである。幹部の兄弟たちの欠点を捜したい気持になったら、ジョージ・Q・キャノン副管長の教えた原則を思い起こそう。

「予言者ジョセフ・スミスが死んだとき、多くの人が 事実上 ジョセフと共に霊的に死んだといえる。 これは 神の王国の管理者に変更があるだびに起こっている。」

「神がその僕たちを選ばれたのだ。もし僕たちを罰する必要があるとするなら、罰するのは神の特権であると言っておられる。神は、彼らを非難する権利を私たち個人には与えられなかった。いかに信仰の強い人であろうと、神権の高い職にいようと、主が油を注がれた者の悪口を言ったり、地上で神の権能を持つ人の欠点を捜したりしながら、神の怒りを買わずに済む人はいない。「聖きみたま」は、そのような人から離れ去り、その人は暗黒の中を歩むことになろう。こういうわけだから、私たちが注意深くあることがどんなに大切かがわかるであろう。教会幹部のとる行動がどんなに不可解に見えても、私たちは余り性急に彼らの行動をいぶかったり、まちがっていると決めつけたりすべきではない。」「

幹部の兄弟たちは、教会が主ィエス・キリストにより、主の予言者、聖見者にして啓示を受ける者を通して導かれている場面をしばしば目撃している。スペンサー・W・キンボール長老はこのことを書いている。

「木曜日の神殿で行なわれる集会の際, 祈りと断食のあと 重要な決定がなされ,新しい伝道部やステーキ部が設立され, 新しい組織や政策が立案されるが, これらの決定は当然のこ とのように思われ, また恐らく, 単に人間の考えたもののよ うに受け取られるかもしれない。しかし, あの固いきずなで 結ばれた円陣の中に座を占め, 予言者の祈りを聞き, 神の人 の証を聞く者にとって, また予言者の思慮の深さに触れ, そ の決定と宣言の賢明さを知っている者にとって, 彼は真の予 言者なのである。そして重要な新事実に結論を下す際、『神 は喜んでおられる』あるいは『その動議は正しい』『私たち の天父は言われた』などといった荘厳な言葉を口にするのを 聞けば、はっきりそれが真実であることを知ることができる のである。

回復にあたった予言者から私たちの時代の予言者まで、その啓示の道はとざされることなく、その権能もとだえることなく、さんさんと貫き通すばかりの光が、輝き続けている。主の御声のかなでる音は、絶えざる調べであり、いなずまのでとき力がある。そしてもうすでに 150 年近くもとぎれることがなかったのである。』8

さらに、ハロルド・B・リー大管長は次のように言われた。「グラント大管長は私たちによくこう言われた……。『兄弟たちよ、この教会の大管長から目を離すことのないようにしなさい。もし大管長があなた方に何かするよう命じて、仮にそれがまちがっていて、あなた方がそれを行なうことがあったとしても、主はその点で、あなた方を祝福してくださるだろう。だが心配する必要はない。主は、決して御自分の代弁者が民を誤って導くのをそのまま見ているようなことはなさらないからである。』』

この教会の会員が、もし神の生ける予言者に従うなら、教会を離れたり、教会の教えや慣行また生ける予言者、聖見者にして、啓示を受ける者の言葉に反対することはないであろう。神の生ける予言者は、主により選ばれ、教会の会員は、この予言者を地に住む人々に対する、主イエス・キリストの代弁者として支持している。この予言者こそ、教会員の祝福と幸福のためは言うに及ばず、地に住むすべての人々のために啓示を受ける人なのである。

(注)

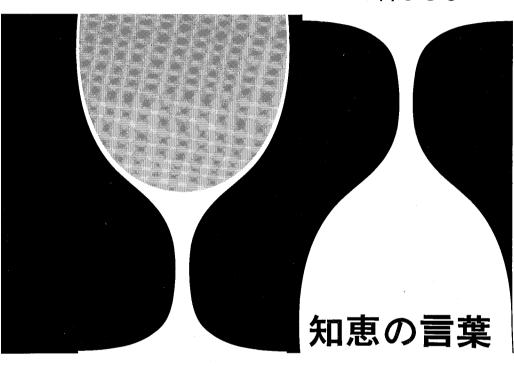
- 1) 「大会報告」1897年10月(英文) P.22
- 2) 同 上
- 3) 「説教集」第9巻(英文) P.324
- 4) ブリガム・ヤング大学における説教1961年4月19日 (英文)
- 5) 「ミレニアル・スター」第9巻(英文) P.323
- 6) 「大会報告」1941年4月(英文) P.51
- 7) 「福音の真理」ジェラルド・L・ニューキスト編

(英文) P.278

- 8) 「インストラクター」1960年8月号 (英文) P.257
- 9) ブリガム・ヤング大学における説教 1961年4月19日 (英文)

バートン兄弟は、ブリガム・ヤング大学の「教会歴史と教義」の教授であり、教会の歴史と教義に関して、何度か論文や本を出版している。現在、シャロンステーキ部のステーキ部長である。

独特な民の目じるし



エドウィン・B・ファーメッジ

知恵の言葉は、主が私たちに健康の 原則として下されたものではあるが、 この教会をこの世から区別して、独自 の位置に保つ機能も果たしている。私 はこのことを最近の経験から初めて知 った。

昨年,私はスイスのジュネーブに滞在し、そこで開催された軍縮委員会に出席した。役目柄私はその会議に出席している25カ国の代表者のほとんど全

員と個人的に話し合うことになった。 真剣な会談に入る前に、大使たちは私 に酒やコーヒーを勧めるのが常であっ た。その場の雰囲気から、何の説明も しないで断わることは失礼にあたると 考えて、私はそのような飲物を遠ざけ ている宗教上の理由を説明することに した。自分の宗教についてこれ以上こ の場で自分から話すのは適切ではない と考えたが、いつも決まって、相手の 方から、遠ざけている意味や根拠などを熱心に尋ねてきた。たいがいそこで私の宗教について話が始まり、「知恵の言葉」からモルモン経の話、そしてモルモン教の起こりなどへ話が発展するのであった。

これと同じ経験がジュネーブ, モスクワ, レニングラード,ロンドン,コペンハーゲンで幾度も繰り返された。私は責任上,交渉の詰めのため引き続きこれらの諸都市を訪れたからである。

例えば、モスクワではソビエトの有名な学者と長時間にわたって二度も話合いをした。話のきっかけはいつも知恵の言葉であった。そして私たちの会話はモルモニズムの教義に関して続行したのである。あまり長くそのことについて話すことは、会談の本来の目的の手前、不都合なので話題を変えようと思っても、相手が続けることを要求することもあった。結局いつもおとで、モルモン経を1冊送って欲しいと依頼されるのであった。

私は前にワシントンD. C. で仕事をしていたときにも、似たような経験をしていた。ところが、この強烈とも言うべき経験を週に幾度となく繰り返していたとき、私は以前に考えもしなかった「知恵の言葉」の別の機能に初めて気がついたのである。

私は教会の中で育ったので、「知恵の言葉」を疑問に思ったことは一度もなかった。私は習慣的に守っていた。「知恵の言葉」を破らせようとする誘惑に遭ったことは一度もなかった。私は必要に応じて「知恵の言葉」は健康を保つための原則であると理論づけた

ことがあったが、もたらされる祝福が 非常に明白であったので、弁護したり 分析したりする必要はないと考えてい た。もちろん、私の新しい見方や最近 の経験でこのことが変わったわけでは ない。しかし、今では少なくとも私に とっては新しい見方であるが、主は私 たちに「知恵の言葉」を制定された、 何か別の目的を持っておられたのでは ないだろうかと考えている。

主はいつも弟子たちをこの世から区 別しようとしてこられた。ペテロは教 会に宛てた最初の手紙で、初期のキリ スト教徒に対し, 主がある役割を果た させるために彼らを選ばれたこと、そ の使命は人類の救いという主の計画を 成し遂げるために不可欠なものである と告げている。ところで昔のイスラエ ルの民は主と契約を交わし、救いの計 画において特別な役割を果たすことに なっていた。その意味で彼らは選民で あった。そしてイエスの時代には従う 人々はバプテスマによって、古代イエ ラエルと同じような契約を交わしてい た。初期の教会は、神権の権能を正統 に所有し, 救いの計画において他の何 者も成し遂げられない使命を帯びてい た。

ペテロは初期の教会員にこのように言っている。「あなたがたは,選ばれた種族,王国の神権者,聖なる国民,神の所有とされた民です。それは,あなたがたを,やみの中から,ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを,あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」(欽定訳 I ペテロ 2 : 9)

古代イスラエルの場合も、後のキリ

ストの教会の場合にも、課せられた使命を達成するには、この世とある一定の間隔を保つ必要があるように考えられる。イスラエルの民は幾度も「バビロンを去れ」と命じられてきた。キリスト教徒は、この世にあってもこの世の者とならぬように教えられている。ローマやエルサレムの俗悪さは、しば初期のキリスト教徒がバビロンやソドムの俗悪さに比較してきたとこれる。教会員はこの世の汚れに染まらないようにしなさいと戒められてきた。

教会とこの世の関係といえば, 最も 好ましい状態でも絶えず緊張の場面が ある。最悪の状態では、教会がその目 的や主の御業をなそうとすると迫害と いう形ではね返ってくる。しかし内な る緊張であろうが公然の迫害であろう が、イスラエルや後のキリストの教会 がこの世から分離してある一定の間隔 を保ったとき,独自の機能を果たすと とができたのである。このように主の 御業を推し進める上で危険なのは迫害 や人の不興を買うことではなくて、む しろイスラエルの民や教会が, 無意識 のうちにこの世に同化して, 伝道の業 を成し遂げるために必要な一定の間隔 を失うところにある。予言者や使徒た ちはイスラエルや教会がこの世に吸収 され,独自の位置を失うようないかな る傾向を見せたときにも激しく非難し ている。

さて、ジュネーブにおいて私は最初の日から目立つ存在になった。私の宗教は各国の代表者たちの間に知れわたった。私が無意識にこの世に同化し、信仰を捨てるようなことは不可能にな

ったのである。この無意識の同化が不可能になったのは全く「知恵の言葉」のおかげであった。次第に無意識のうちに世に同化することを防いだこの同じ律法は、またこの回復された福音を述べ伝えるきっかけにもなった。

後にアメリカ国務省に帰ってから、 このことを法律事務所で顧問弁護士を しているユダヤ人の青年に話したところ、彼はすでにそのことに気づいていて、食物に関するモーセの律法の中に は明らかに主の民を他から区別するために下された律法があったと話してくれた。すなわちユダヤ人が無意識のうちに異邦人に同化されるのを防ぐ機能を持っていたというのである。

このように飲食という, 毎日規則正 しくそして比較的公けの場で行なわれ るものに、ある特別な要求をするのは、 この世にある主の民に自覚を持たせ. この世の人々から区別するという目的 を遂げるのに最上の手段であって、こ れ以上の手段を考えつくことは困難で あろう。飲食物に関する律法をこの世 から隠れて守ることは不可能である。 たぶん、私は今度のことで幾分か、個 人的にではあるが、ペテロが初期のキ リスト教徒に贈った「神の所有とされ た民」という言葉の意味をよく理解で きるようになったと思っている。「神 の所有とされた民」は福音の伝道とい う特別な業を成すためにこの世から区 別されているのである。

ファーメッジ博士はユタ大学で法学の教授を務め、また学生支部の支部長でもある。昨年、スイスのジュネーブで開催された軍縮委員会に「米国外交問題評議会」の国際問題担当特別会員として出席している。



神の王国を 出で行かせたまえ

ハロルド・B・リー大管長

これは末日聖徒イエス・キリスト教会大管長に支持された 「聖会」での説教である。

今日、生涯で最も厳粛なこの日、私は心の奥深く貫く大きな感動をとても口で表現することはできない。従って私は主のみたまに促されて話すのでなければ、至高者の聖徒である愛する皆様に、この大切な歴史的な瞬間にある私の心中の思いを感じていただくことはできないであろう。

皆様と共にての心を揺り動かさずにはおかない「聖会」に参加して、私の心には何にも増して、1835年に主がこの教会に与えたもうた大いなる啓示の重みが力強く迫ってきた。主はこの啓示の中で、具体的に指示を与えて、神の王国すなわち教会を統治するには、神権の秩序を尊ばなければならないことを示された。

この啓示の中で主は、大管長会、すなわち主の呼び方によればメルケゼデク神権、または教会の大神権の大管長会(教義と聖約 107:22)を定める4つの条件を指定された。

まず、3人の管理大祭司がいなければならない。

第二にこの3人はひとつの組織体 (これは十二使徒定員会であると考え られている)によって選ばれる。

第三にこの3人は同じ組織体,すなわち十二使徒定員会によって指名され,聖任されなければならない。

第四に彼らは、教会員の信任と信仰 と祈りによって支持されなければなら ない。

大管長会の定員会が形成されて教会

を管理するようになるためには、以上 のことがすべて秩序正しく行なわれな ければならない。

前の3つの段階は,1972年7月2日 に神殿で開かれた神聖な集会で,十二 使徒によって進められ,正しく守られ た。そして大管長会が指名された。

今日私はこれまでにも増して、最後 の条件の重要性を感じている。すなわ ちこの大管長会は、主の言葉によれば 教会員の信任と信仰と祈りによって支 持されなければならない。もちろんこ こで言う教会員とは、すべての教会員 を指している。

しばらく前、すばらしいレーマン人の聖徒たちが中央アメリカ諸国やメキシコから集まって大きな地区大会がメキシコ市で8月に開催されたとき、私たちは愛と友情の精神が会場に豊かにあふれるのを目にした。1万6千人以上の聖徒が広い会場に一堂に会し、教会幹部を支持した。

再びこの力強い「聖会」の場で,私 は兄弟たちの真実の愛ときずなを感じ て、口では言い表わすことのできない 感動を覚えている。この会場には霊の 賜があふれんばかりにみなぎっていて 疑いもなく私たちは目に見える人はも ちろん, 見えない人々の面前にもいる のである。このような機会には私たち の主もそばにおられるに違いない。そ うでないとだれに言えようか。私たち も全世界もこの教会が主の教会である ことを決して忘れてはならない。また 私たちは全能者の指示に従って仕えな ければならない。実にニューヨーク州 フェイヤットで開かれていた同様の大 会で主が聖徒たちに宣言されたことを 思い起こしていただきたい。まざまざ と当時のことを思い起こすことができ る。主は言われた。「されど見よ,誠 にまことにわれ汝らに告ぐ、わが眼は 汝らの上にあり。われは汝らの真中に あれど、汝らわれを見ることを得ず。」 (教義と聖約38:7)

3カ月前,私が今引き受けなければならないこの圧倒するような責任の重さを感じ始めた頃,私は聖なる神殿に行った。そこで私は祈りと瞑想に時を過ごし、神の人々の肖像画を見上げていた。真実の、清い人々、高潔な神の人々であって、同じ召しを受けた私の先達であった。

数日前の早朝,私は自宅の書斉でただひとり思索にふけっていた。そして 歴代大管長に寄せられた最も近い人々からの弔辞を読んだ。

ジョセフ・スミスは少年時代に主から召され、神の権能を与えられた予言者であった。そしてジョセフ・スミスは、神権を受け、末日に神の王国の基を置くために必要な事柄を教えられた。

ブリガム・ヤング大管長は, この世が造られる前から予任されていた。ヤング大管長は, 初期の集合地であったミズーリ州やイリノイ州の聖徒たちを激しい迫害の炎から導き出し, この壮重な山脈の頂上に内陸の王国を築いて, 神の目的を達成するように召されていた。

ジョン・テイラー大管長の容貌を見ていると、かつてジョセフ・F・スミス大管長が彼について言ったように、「これまでに知った人の中で一番清い人」がここにいる、と感じる。

いかにも聖徒らしいウィルフォード・ウッドラフ大管長の顔を見ると、私は、昔のナタナエルのような人がここにいると確信できる。この人は悪意がなく、主のみたまの働きを鋭敏に捕える人であった。この方には光が伴って

いていつも「これから何をすべきか知らなくても」安心して歩ける人であった。

ロレンゾ・スノー大管長は,在任期間こそ短かったが,**犠牲**の律法を断固たる決意をもって実施することにより,聖徒たちの物質的な基盤を確立するという特別な使命を帯びていた。また無意識の中に忍び込んでいた誤ちのために教会にふりかかっていた莫大な負債を除く使命も帯びていた。

いろいろな主題の教義を明確にしたいとき、私はいつもジョセフ・F・スミス大管長の著書と説教に頼ってきた。彼の高貴な肖像画を見ていて、未亡人となった母を助けて大平原を横る9歳の男の子の姿が浮かんできた。またマウイ島のハレアカの坂できれたのは叔父のジョセフ・スミスの訪れを受けて力づけられた15歳の宣教師の広とが思い出された。敵がい心おう空を対したのがスミス大管長であった。しかし彼は主から任命され、確固とした歩みで教会を堂々と守り抜いたのである。

ヒーバー・**J**・グラント大管長が私の肩に手をおいて,今の感情に似た深い感動をもって私を主イエス・キリストの使徒に召したときほど,神聖な召しの意味を深く感じたことはなかった。私を見おろしているグラント大管長の顔を見ていると,神殿の中で,彼の手によって聖任されたとき,霊感された祝福の中に予言的な言葉があったのを,ありありと思いだすことができる。

ジョージ・アルバート・スミス大管 長は、友情と愛に満ちた使徒であっ た。スミス大管長は実にすべての人の 友であった。彼の肖像画を眺めている と、だれでも友にしたあのほとばしる ような暖かさを感じることできる。

背が高く強い印象を与える大管長は、デビド・O・マッケイ大管長である。いつも私の心を見抜くように感じられた、貫徹力のある視線が今も私を見つめている。昔何度も感じてきたと同じように、マッケイ大管長の前にいるとどんなに短時間であっても、彼と共にいることで自分が向上するのを感じた。

この世の栄誉は一切求めず、霊のことに喜びを感じた人。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はそういう方であった。スミス大管長は笑顔をたたえた愛する予言者であり、私の指導者であった。彼は真理については決して妥協することがなかった。正に、「神の指が彼に触れ、彼は眠りについた。」そのわずかの間に、スミス大管長は正義の杖を私に渡して、「汝行って同様にせよ」と言われたように思われる。

そこで私はひとり立って思索の一時を持った。そのとき私の心に生じた考えはこうであった。私が新しい召しに就いて果たす働きの唯一の真実の記録は、私が教会の内外を問わず、仕え働いた対象となる人々の心と生活に記録されるのである。

愛するスミス大管長の死去数日後この任命を受けたが、その翌日、私は1853年、十二使徒のひとり、オルソン・ハイド長老が大会で話した説教の一節に注目した。この一節は私に熟考を促した。

ハイド長老の説教の題は、「神の民 を導く人」であった。彼の説教から一 部引用しよう。「どんな場合でも必ず こうである。人が民を導いていくよう に指名され聖任されるとき、その人は すでに様々のかん難と試練を乗り越え、神と神の民の前に、その職に就くにふさわしいことを証明しているのである。……まだ試されず、神と民の前に、また至高者の評議会の前に自分がふさわしいことを証明できなければ、前に出て教会と神の民を導くべきではない。このような例はこれまでになかった。時の初めから、教会を導いていく者の資質は、みたまと全能者の勧めを理解し、教会員を知っていて、教会員からも知られていることであった。」(「説教集」第1巻(英文)) P.123)

私の前に大管長の任に就いた人々の 生涯を振り返ってみて、私はどの大管 長もそれぞれその時代に特別な使命を 帯びていたことを知った。

そして静かに内省して自分のことを 考えでみた。またオルソン・ハイドの 評価法に照らして、私の経験を考えて みた。続いて予言者ジョセフが彼の性 格について語った言葉を思い出した。 その言葉は幾分私にも当てはまるよう に思われる。予言者は次のように語っ ている。

「私は高い山からころがり落ちる, でつごつした大きな岩のようなもので ある。私が丸みを帯びていくとすれば, 外部のもの,例えば宗教上の偏見,聖 職者の攻略,弁護士や学者の術策,虚 偽を流布する編集者,買収された判まる 偽を流布する編集者,買収された判する 者,わいせつな堕落した男女をうととで を打ちたたく。このようにして私は 全能者の矢筒に納まる丸みを帯びを まる。地獄が束になってそこかして ある。地獄が束になってそこかして ある。地獄が束になってそこかして ある。地獄が束になってそこかして ある。地獄が束になってそこかして ある。地獄が束になってそこかして ある。地獄が束になってそこかして のようにかまるる。」(「予言者 ジ っとする。」のように心中よぎる思いと考え合

わせていると, なかなか理解できなか

った様々な経験や身にふりかかったできごとの意味がわかってきた。私も高い山からころがり落ちるごつごつした石のようなことが多く、諸々の経験にもまれ、磨かれ、問題を克服して全能者の矢筒の中にあって洗練された矢となるべく備えられたように思われる。

私も苦しい事柄に遭遇して、従順を 学ぶ必要があったに違いない。それは 私のためになる経験であり、現世の様 々の試練を克服できるかどうか試すも のであったのである。

私の顧問となる高貴な人、N・エルドン・タナー副管長とマリオン・G・ロムニー副管長を選ぶにあたって、私はこのふたりも豊かに予言の賜を授かっており、私が決して孤独ではないことを感じた。このふたりも試されてよしとされ、主の前に欠けるところのない人々である。私は大管長会の高潔な人々に、また十二使徒や他の教会幹部の立派な方々にほんとうに感謝している。

私が召された次の朝、愛する伴侶と ひざまずいて祈っているとき、私の心 は天の窓が開けるごとく親しみをこめ てすべての教会員に到達するように思 われた。そして全世界の300万以上も の会員のひとりであることをしばし感 じることができた。

他の場所ですでに話したことであるが、私はすべての忠実な聖徒から信任と信仰と祈りによって支持されることを、衷心から祈り求めている。私は皆様の祈りに答え、主が私を通して皆様の祈りに答えられるような大管長となるべくまごころから努めることを約束する。

との数カ月の間に、新しい霊的な理解力の泉が湧いてきたように思われる。私は英国へ向かう初期の宣教師に

予言者ジョセフが言った次の言葉が真 実であるとはっきり知っている。

「人が主に近づけばそれだけ、敵の力は主の御業達成を妨げようとして大きくなってくる。」(オルソン・ \mathbf{F} ・ホイットニー「ヒーバー・ \mathbf{C} ・キンボールの生涯」((英文)) \mathbf{P} . 131)

このことが当時だけでなく今日も事実であることに一点の疑いも持っていない。しかし同時に主が言われたように、「汝らに刃向う刃は栄ゆることなからん。もし何人にても声を挙げて汝らに逆らう者あらば、わが時節至りて言い破られん。」(教義と聖約71:9,10)

私は皆様の忠誠と支持の挙手に心から感謝している。私は救い主が確かに神聖な使命を帯びておられたことを、これまでのすべての神権時代と同様、主の教会にかかわる事柄の上に、主の導きの手があることを、厳粛に証する。目で見ることを許された以上に確固とした証をもって、私は次のことを承知している。主が言われたように、「神の王国の鍵はこの世の人の手に委任され、〔予言者ジョセフ・スミスか

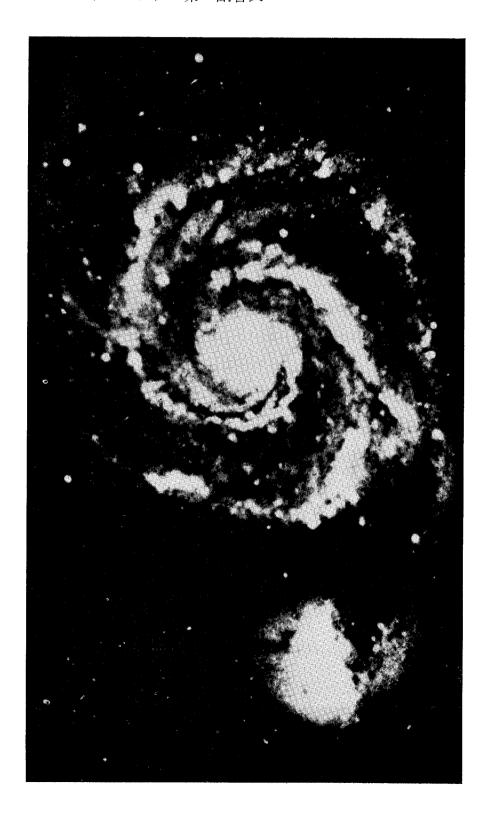
「神の主国の難ばこの世の人の手に安任され、〔予言者ジョセフ・スミスから後継者を通して今日にいたる〕,福音はここより転じ行きて世の果にまでも達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて、ついに全世界に充ち満つるが如し。」

「これを以て,願わくは天の王国の来たらんため,まず神の王国を出で行かせたまえ。」(教義と聖約65:2,6)

私は全身全霊に満ちあふれる確信を もって以上の証をのべ、教会の全会員 と全地の心の清い人々に祝福があるよ うに、主イエス・キリストの御名によ り祈り奉る。アーメン。

宇宙から送られてくる警告

№・エルドン・タナー第一副管長



今日,世を取り巻く情勢を見て,私は最近読んだある論説を深く考えてみた。それはこういう論説である。

「あるドイツの天文学者によれば, 地球の未熟な文明は,今,新しく発見 した自己破壊能力のため,最初の大き な危機に直面しようとしており,人類 がその破滅を防ぎ得る一筋の光明があ るとすれば,それはかなたの宇宙から 電波で送られて来る勧告に必死で耳を 傾けることであると言う。

この科学者の信ずるところによれば どこか宇宙のかなたに、ある高度に発 達した文明があり、その文明はこれま でたび重なる危機を乗り切ってきたの で、まだ未熟な地球が若気のいたりで 誤ちを犯さないよう警告しようとして いるというのである。

何と鋭い観察であろうか。だが、偉大なる創造主は、これまで何千年も地上に住む御自分の民が、勧告と知恵に一心に耳を傾けることを望んで働きかけてこられたのである。ただ民は耳を傾けなかったか、目も耳も鈍かったのである。」(「教会情報提供誌」 1970年9月((英文)))

時の初め以来,神御自らの現われに よるか,天使によるか,あるいは直接 の啓示によるか,示現によるか,ず現によるか,また霊感によるかを問わたえがれるとでれた。 れたことを記す記録がある。そのである。そのである。またふたりが園を追放されたりが園を追放されたりである。またふたりが園を追放さきを見なかったが,御声は聞いた。神を見なかったが,御声は聞いた。神を見なかったが,御声は聞いた。神を礼まし,供え物を捧げよと言われた。

「……アダムは主の誡命によく従い」

ね。

多くの日を経て、主の天使一人アダムに現われて言いけるは、汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。

ことに天使語りて言いけるは、この 犠牲を捧ぐることは、御父の生みたも う恩恵と真理に満てるただ独りの御子 が犠牲となりたもうことのひながたな り。

この故に、汝の為すすべてを御子の 御名によりて為せ。また汝悔い改めて 今よりいつまでも御子の御名によりて 神を呼ぶべし。

その日、父と御子の証を為したもう 聖霊アダムに下りて宜いけるは、われ は太初より、また今よりとこしえに、 父の生みたまえる独子なり。汝堕ちし が故に贖わるることを得ん。贖われん と欲するありとあらゆるすべての人類 もまた然りと。」(モーセ5:5-9)

従って、明らかにアダムは、キリストが人類の罪を贖って殺されることと復活のあることを啓示によって知っていた。これは、アモスの予言にあることを証拠立てるものである。アモスは「まことに主なる神は、そのしもべである予言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」(アモス3:7)と言っている。

多くの人々が、歴史家によって記録された俗世の事実は喜んで受け入れるのに、人格に非の打ち所のない人たちが聖典に記録した宗教上の歴史は、受け入れることを拒んでいる。それどころか、主から出た予言がいったん成就し、俗世の歴史でも立証されているのにそれを信じようともしないでいる。この理由には全く合点がゆかない。特

に人々は何世紀にもわたって自分の時 代の予言者を受け入れることを拒んで きた。それで予言者の多くは, 迫害さ れ嘲笑され, そして殺害されてきた。

予言者が悔い改めを叫んで、人々の 悪に目を向けさせようとすると、例外 なく大多数の人々が予言者を受け入れ ようとしなかった。聖典はそれを嘆く 声で満ちている。救い主が律法学者と パリサイ人を叱責された後群衆に向か って言われたことばを覚えているだろ う。

「ああ、エルサレム、エルサレム、 預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを、幾たび集めようとしたことであろう。それだのに、おまえたちは応じようとはしなかった。

見よ。おまえたちの家は見捨てられ てしまう。

わたしは言っておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時までは、今後ふたたびわたしに会うことはないであろう。」(マタイ23:37-39)

主にあって喜ばれたいと思うなら, 私たちは予言者に耳を傾け,支持しなければならない。新大陸の初期の予言者ニーファイは,その民を嘆いて言った

「私の兄弟たちよ。神は紅海の水を打ってこれを右と左へ分ける力をモーセと言う一人の人に与えたもうた。それで、私たちの先祖であるイスラエル人は乾いている陸を歩いて海を通り過ぎたが、そのあとから海の水はもとのところへかえり、エジプト人の軍隊を呑みこんでことごとくこれを濁らせて

しまったことは, あなたがたが読んだ ではないか。

でらん、もし神が本当にこのような 大きな力をモーセに与えたもうならば あなたたちはなぜ互いに争って、悔い 改めをしないとあなたたちに下るはず の裁きを知る力を神が自分に与えたこ とはないと言っているのか。

あなたたちは私の言葉を否定するばかりでなく、また私たちの先祖が宣べたすべての言葉と、前に言ったような大きな力を与えられたモーセの言葉、すなわちモーセがメシャの降臨について告げた言葉も否定するのである。

このような証拠を立てたのはひとり モーセだけではなくて、その時からさ かのばってアブラハムの時代に至る聖 い予言者たちもまた皆これを証した。

私はアブラハムの時代の後にも, これらのことを証した予言者が多かったことをあなたたちに知らせたいと思う。予言者ゼノスは勇敢に証拠立てたが, これがために殺されてしまった。

……エルサレムがエレミヤの言った 通りに亡ぼされたことは私たちが知っ ている。それであるから、エレミヤが 予言した通りに神の御子がどうして降 臨したまわないことがあるだろうか。

今あなたたちは、エルサレムが破壊 された事実を否定しようとするのか。

私たちの先祖のリーハイも前に言ったことを証したためにエルサレムから 追われた。……

今あなたたちはすでに以上のことを 知っているから、自分を偽らなければ これを否定することはできない。それ であるから、あなたたちは自分の知っ ている証拠がこれほど多いにもかかわ らず、なお以上のことをみな否定して いるから、この点に於て罪を犯してい る。

しかし、あなたたちはすでに真理を 否定し、あなたたちの聖い神に背いた。そして今に至っても錆び腐るものなく、汚れたものの入ってこない天に自分の宝を貯えようとせず、かえって 裁判の日に受けなくてはならぬ責苦を 積み重ねている。

あなたたちは今に至ってもなお人殺し、みだらな行い、悪事を重ねて永遠の亡びにおちいる用意をしている。もし悔い改めないと、このような亡びはすぐあなたたちにやってくる。」(ヒラマン8:11-13, 16, 19-22, 24-26)

今日, 私たちは喜んで悔い改め, 神 の御言葉を受け入れようとしているだ ろうか。それとも、古代の人々のよう に, いたずらに神の怒りを招いて, 裁 きの日に永遠の滅びの定めを受けよう としているのだろうか。こうしたおと ずれは, あらゆる時代に霊の父である 愛する天父のもとから,全地の民に送 られている。そのおとずれは,私たち に幸福と祝福をもたらすために与えら れたのである。天父は私たちに関心を 持っておられ、私たちがこの世におい ても、永遠の世においても成功を収め て、幸福になることを望んでおられ る。天父は世界を創造され、私たちを この地上に送られた。従って, 何が私 たちにとって一番良いのかを知ってお られる。そして、予言者と御子イエス ・キリストを通して、私たちを救いと 昇栄に導く「生命の計画」を与えられ た。神が子供たちを愛しておられ、ま た導きたいと望んでおられることは, あらゆることからみて明らかである。

エジプトに売られたヨセフの経験を 考えてみよう。パロが自分のみた夢に 悩まされ、ヨセフがその夢を解き明か



N・エルドン・タナー第一副管長

すことができるかもしれないと知った あの話を思い出すことだろう。そのと き、パロはヨセフを呼びにやって、こ う言った。「聞くところによると、お まえは夢を聞いて、解き明かしができ るそうだが……」

ョセフは、「いいえ、わたしではありません。神がパロに平安をお告げになりましょう」と答えた。

そこでパロはヨセフに、7頭の太った牛と7頭のやせた牛、そして太った穂と、やせた穂のでてくる夢の話をした。するとヨセフは「神はこれからしようとされることを、すなわち、最初の7年間大豊作があり、その後7年間ききんの来ることをパロに警告されたのです」と言った。

パロがこの解き明かしを受け入れ、ヨセフをつかさに任命し、7年間のききんに備えて余分の食糧をヨセフに貯えさせたことは衆知の通りである。ヨセフは忠実であり、霊感と啓示に敏速に反応したため、のちに父ヤコブが、ヨセフをエジプトに売った兄たちをヨセフのもとに送って穀物を買い求めさせたとき、家族を救いうる地位にいる

ことができたのである。

ョセフは、後に証して言った。「神は、あなたがたのすえを地に残すためまた大いなる敷いをもってあなたがたの命を助けるために、わたしを、あなたがたよりもさきにつかわされたのです。」(創世41:45参照)

私たちには近代同様,古代に予言者が受けた数多くの啓示を記した記録がある。イエス・キリストの誕生,伝道,十字架上の死,そして復活に関する予言は,聖書にもモルモン経にもいろいろの予言者によって何回か予言されており,その予言のうちのあるものは,イエス誕生の数百年前のものである。イザヤ,エレミヤ,エゼキエル,リーハイ,アルマをはじめ,この偉大なできごとを予言している多くの予言者の言葉がある。

ニーファイは、主の天使によってこのできごとを示現で示され、詳しく記録している。ニーファイは、イエスの母マリアがその腕に幼な子、すなわち神の子羊にして世の贖い主となる幼な子を抱いているのを見た。またイエスにバプテマを施す予言者を見、聖霊がイエスの上に下るのを見、またイエスが十二使徒と共に働き、病人をいやし、悪霊や汚れた霊を追い出すのを見ている。

ニーファイはまた、敷い主の生涯に おける最後のできごとをこのように予 言している。

「しかしごらん,かれらの中には戦が起りまた戦の噂が行われる。そして 天地の父の生みたもう独子が肉体でかれらに現われたもう日がくると,かれらは自分たちの悪事とかたくなな心と強情なために,その独子を受け入れることを拒み,とうとうこの独子を十字 架にかける。しかし、独子は三日間墓に横わりたもうてから、自身にある癒しの能力をもって死者の中からよみがえりたもう。それであるから、およとその御名を信ずる者は皆神の王国には改われるのである。従って、私の心とを楽したことがあって、心の中にその聖い御名をあがめるからである。」(『ニーファイ25:12,13)

ニーファイがとの予言をしたのは、 数い主の誕生のほぼ 600 年前のことで ある。しかしこの予言は、後に一字一 句も違わず成就している。新約聖書の 著者たちは、これらの予言を確認して 論争の余地のない証を立てている。新 約聖書はまた、旧約聖書や今述べたモ ルモン経の他の予言者が正しいことも 立証している。

ルカの記録の語るところによれば, 天父の御使いが天空を横切って現われ 言った。「きょうダビデの町に,あな たがたのために救い主がお生れになっ た。このかたこそ主なるキリストでし る。」(ルカ2:11)すると突如として 外界の宇宙のただ中から「おびただてし い天の軍勢が現れ……神を讃美してて い天の軍勢が現れ……神を讃美しにて いた。『いと高きところでは,神に 光があるように,地の上ではみ心にか なう人々に平和があるように』」(ルカ 2:13,14)(「教会情報提供誌」論説 1970年9月)

神が地上に予言者を召される目的はいかなる宇宙通信の方法であれ、神の選ばれた方法によって、全人類の幸福と祝福のために御自身のおとずれを伝えることにある。神はその深い知恵によって、人が不死不滅と永遠の生命を得るための方法を備えられた。これは

イエスの言われた、神の業にして神の 栄光なのである。キリストが私たちの ために偉大な犠牲を払う前にも後にも このおとずれ、すなわち福音の律法と 原則に従順に従い、世の罪を悔い改め ることによって、昇栄を得ることがで きるという知らせが、予言者を通じて 啓示されている。

予言者に耳を傾けることは、何と大切なことであろうか。聖典には、この末日に私たちに襲いかかろうとしている災いについて、警告している箇所が数え切れないほどある。その災いはすでに起こっているしまた今後も起ころうとしている。この破滅を免れるには悔い改め、神が御子イエス・キリストと予言者を通して啓示された福音の教えを受け入れ、それに従って生活するしか道が残されていない。

「外界から送られるおとずれは、あ らゆる時代に数限りなくあった。そし て何人もの,エレミヤ,エゼキエル,ダ ニエル, ニーファイ, モロナイ, ペテ ロ,パウロによって,また近代ではジ ョセフ・スミスや彼に類する人々によ り、忠実に解明された。 ラジオやテレ ビ通信以上の方法で、宇宙船や航空機 やロケットを使うこともなく, 個人に 対するおとずれがもたらされたのであ る。人類が人の住む惑星の圏内に到着 するには、まだまだ長い道のりがあ る。しかしながら、宇宙通信に相当す るものはある。人類は神に語りかけ、 神から答えを受けてきた。そうしたお とずれが、ここ 6,000 年間、この地に 住む人々の幸福と祝福のために送られ てきたのである。」(同上)

今日, 地上には予言者がおり, 主は この予言者を通してみこころをあらわ される。私たちは教会員として, 「す べて神のこれまでに啓示したまいして と、すべて今啓示したもうことを信じ なお今より後、神の王国につきて多く の偉大にして重要なることを啓示した もうこと」(信仰箇条第9条)を信じ ている。

かつて人類にもたらされたもので、最も祝福に満ちた最大のできどとよる、えば、イエス・キリストの犠牲にわれて事罪であり、またイエスが与えられた「生命と救いの計画」である。人類ジラスに重要な通して福音がフになって、スミスを通して福音がフになってある。神は、それを聞いた全ないけられ、ジョセフは完全を力によってジラを世にあられたよってジラを世にあられたとない。その記録は、聖書や近れたとない。その記録は、聖書や近れたとないよいない。

当時14歳であったジョセフは、その地方の様々な教派が行なっていた改宗活動の渦に巻き込まれてひどく心を乱され、どの教派に加入すべきか知りたいと思った。あるとき聖書を読んでいたジョセフは、たまたまヤコブの書いた言葉にさしかかった。

「あなたがたのうち,知恵に不足している者があれば,その人は,とがめもせずに悔しみなくすべての人に与える神に,願い求めるがよい。そうすれば,与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブ1:5,6)

ジョセフは、もしだれか知恵を必要 としている人がいるとするなら、それ は正に自分であると感じて、*人里離れ た森に行き, ひざまずいて祈った。

ジョセフはそのときのことをこう記録している。「……私は自分の真上に太陽にも増して輝く一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに、私の上にふり注いだ。

……そしてその光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。その中のお一人は、「(ジョセフよ) こはわが愛子なり、彼に聞け」と仰せになった。(ジョセフ・スミス2:16,17)

ジョセフはこの示現により、自分が生きているのが確かなように、父なりの生ける御子イエス・キリストがふたりの生ける御方であることを知った。まれて行るであることを知ったのまれ、祈りを聞いて答えてくださったらこと指示を出されたことを知ったがらことを打って経験を友を認いますと、彼らの間に大きな反感がわらにませている。ジョセフは追害され、馬鹿にされることとなった。ジョセフいる。当時のことを次のように書いている。

「……私は自分の胸の中で語るようになった『何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ,私がどうして神に抗らえようか。何故世の中の人は,私が本らと見たものを見ないと言わせようとる知られば東であるのを身を以てもうとしなかった。私はそれを打ち打ちったとはできなかった。私はそれを打ち打ちったとはできなかった。私は少くとも,本のととしてよりを受けて罪の宣告を受けることを

知っている』と。」(ジョセフ・スミス 2:25)

ジョセフが神にさらに指示を求めたとき、天使モロナイが現われ、ジョをフに金版について教え、示現で金版を示した。4年後、ジョセフはその金版には、神がアメリカ大陸の古代民族に働きかけら全なを受けたが、その金版には、神がられたをできまれていた。ジョセフは、完全を耐力により、また啓示によった。ショセフは、って、金版上に刻まれた文字を翻訳した。その記録の目的は、ユダヤ人と異邦によった。とを確信させることにある。

モルモン経について、モロナイは次 のように約束している。

「またこの記録を受ける時, それが 真実なものかどうかをキリストの御名 によって永遠の父なる神に問え。もし 誠心誠意でその上キリストを信じなが ら問うならば, 神は聖霊の力によって この記録が確かなものであることをあ なたたちに示したもうにちがいない。

そして聖霊の力によって一切の事の 真実であるかどうかがあなたたちに解 る。」(モロナイ10:4,5)

以上のことの真実であることが私に示されたことと、この末日に、予言者ジョセフ・スミスを通して福音が回復され、父なる神と御子がジョセフの前に御姿をあらわされたということを心からへりくだって証する。また神が確かに生きたまい、イエスがキリストであり、私たちに不死不滅と永遠の生命を享受させようとして、万人のために生命をささげられたことを証する。

私たちと主との間の径路は今も開かれている。従って、私たちは秘かに祈

るときも、家族と共に祈るときも、公の集会で祈るときも、在天の神が私たちの愛する父であることを感じながら語りかけることができる。また、個人的なことであろうと、私たちの持つ召しや職に関することであろうと、私たちの方で正しく祈りさえすれば、主はすぐにも祈りに答え、私たちを導こうと待っていてくださるのである。

私はまた、現在の指導者ハロルド・B・リーが神により備えられ、選ばれた、神の予言者であり、また、権威ある者の手によって按手聖任されたことを証する。リー大管長こそ、教会の人類のために神から導きを受ける資格のある人であり、現に今、その導きを受けている人である。

主は予言者に関し、教会員にこう仰せになった。

「……汝ら教会員は,彼が上より受くるままに汝らの与える誡命と彼の言とを心にとめてよく聞き,わが前に全く聖き道を履むべきなり。

そは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰 とを以て、あたかもわが国より聞くが 如くにこれを受け入るべきなればなり。

これらのことを為さば、地獄の門も 汝らに打勝たざるべし。而して、誠に 主なる神は汝らの前より暗闇の力を追 い払うべし……

主なる神かくの如く言う。われは彼に霊感を与えて、善を為すために大いなる力を以てシオンの大事を押し進めしむ。われは彼の勤勉なるを知り、また彼の祈りを聞けり。」(教義と聖約21:4-7)

願わくば、私たちが予言者を心にとめ、そして予言者に従うことができるよう、イエス・キリストの御名によりへりくだって祈る。アーメン。

なぜさらに 末日聖徒 イエス・キリスト教会が 必要なのか

マリオン・G・ロムニー第二副管長

この会場とあらゆる他の場所で耳を傾けている兄弟、姉妹、それに友人の皆様、発表されたとおり、この集会は末日聖徒イエス・キリスト教会第142回半期総大会の一部をなすものである。

教会が組織されたときも、また今日でも、いわゆるキリスト教会が数多くあるために、「なぜまた別の教会が必要なのか」という質問がしばしば出される。

まず第一に、質問そのものから明らかなことは、かように数多くの教会の存在したことが、ひどく人々の心を惑わしたということである。心の正直な人々は、数ある教会の中で、もしあるなら、どの教会が真のキリスト教会なのかと考え、心を乱し悩んだ。

そのような人々の中に、14歳の少年 ジョセフ・スミス(2代目)がいた。 1820年の春、当時ニューヨーク州パル マイラに住んでいた彼は付近の信仰復興運動に心を乱され,また教会間の骨肉相はむ争いに惑わされ,やがてヤコブの「あなたがたのうち,知恵に不足している者があれば,その人は,……神に願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう」(ヤコブ1:5)という訓戒と勧告に心を動かされることになった。そこでジョセフは,幼な子のように無垢な信頼から,「何れに加入すべきか知るためにすべての教派の中で何れが正しいか」を主に尋ねたのである。

「(ジョセフは言う。) 私は……ひざまずいて自分の心の願いを神に祈り始めたが、私が祈り始めるや否や、直ちに私は何とも知れぬ力によって捉えられ……

しかし、私は……全力を振りしばって神を呼び求めたが、私が今にも絶望

に打ち沈んでわが身を破滅に任せよう としたその瞬間……私は自分の真上に 太陽にも増して輝く一つの光の柱を見 た。そしてその光の柱は次第に下りて きて光はついに私の上にふり注いだ。

その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛った敵から敷い出された事に気がついた。そしてその光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」(ジョセフ・スミス2:15—18)

この示現は、荘厳な劇の幕開けであり、やがて10年後の教会の設立をもってこの劇は最高潮に達するのである。

この天界からの示現の折、御言葉をかけられた御子はジョセフに、当時存在するいかなる教会にも加入してはならない、なぜなら「彼らのことごとく誤れるを以てなり」(ジョセフ・スミス2:19)と仰せられた。当時の教会はイエス・キリストの教会を構成するふたつの不可欠な要素を欠いていた。すなわち、イエス・キリストの福音とその御名である。

諸教会に欠けていた,福音に絶対必要な要素とは,

- 1. 神の属性と、人間と神の関係についての真理
 - 2. 救いの原則と儀式に関する知識
 - 3. 神権
 - 4. 絶えざる啓示

である。

まず第一の要素である、父なる神と その御子イエス・キリストの属性についてであるが、ジョセフは前述の示現 のときに真理を学んだ。のちにジョセフは御二人方について「御父は、人間 の有する肉体と同じく触知し得る骨肉 の体を有したもう。御子もまた然り」 (教義と聖約 130:22) と説明している。

神と人との関係について、ジョセフは、その後与えられた啓示によって、

「諸々の世界」の住民(この地球上の 私たちも含めて)は、「皆神より生れ たる息子と娘なること」(教義と聖約 76:24)を知った。

神と人とに関するこういった根本的な真理は、ジョセフ・スミス当時の教会では教えられていなかった。明らかに、当時の教会はそのような真理を知らなかったし、また信じてもいなかったからである。しかしながら、イエスと使徒の時代のキリスト教会の会員たちは、確かにこれらの真理を知り、信じていたし、教えられてもいたのである。しかしこの知識は1830年に至るずっと以前に失われていたのだった。数多くの教会ができたのは、神と人に関する真の知識に欠けていたためである。

1820年代に入って、根本的な福音の原則と儀式に関する知識が、新しく天から少年予言者ジョセフ・スミスに啓示された。ジョセフはこれらの原則と儀式の多くをモルモン経から学んでいた。このモルモン経は、次のようにし



マリオン・G・ロムニー第二副管長

てジョセフ・スミスの手に渡ったので ある。

1827年9月,古代アメリカの歴史家であり予言者であったモロナイが復活して現われ,ジョセフに薄い金版に書かれた記録を手渡した。ジョセフはこの記録を,神の賜物と力によって翻訳した。この記録には,イエス・キリストの福音の原則と儀式に関する説明が古代アメリカの住民に教えられ,そこで行なわれたままに書かれてあった。

1829年、ジョセフはこの書物に「モルモン経」という表題をつけて出版した。この本には、復活したイエス・キリストがエルサレムの地で導きを与えられた直後、アメリカの住民の間で自ら導きを与えられたもうたことが記録されている。この住民にも、イエスはパレスチナで教えられたとおり教えられた。また御自分の教会を組織し、その指導者たちに聖なる神権を与えられた。イエスは指導者たちに、「福音の救いの儀式」の施し方を教え、示されたのである。

ジョセフはモルモン経を出版するまでに、福音の必要不可欠な要素を手にしていた。すなわち、聖なる神権であり、その権能によって、ジョセフは神に代わり、神の御名によって行なうことができたのである。

1829年5月、ジョセフはアロン神権を受けた。モルモン経の中に記録されているパプテスマに関する敷い主の教えを翻訳している際、ジョセフと彼の書記オリバー・カウドリーは、その主題に関してさらに大いなる光を求めて主に祈った。ふたりがひざまずいて祈ると、天の御使の訪れを受けた。その御使は「新約聖書に見ゆるかのバプテスマのヨハネと同一人」のヨハネであると言うと、ふたりの頭の上に手を按いて、

「汝ら,われと同じ業に働く僕らよ 救世主の御名によりて,われ汝らにア ロンの神権を授く。こは天使の導きと 恵み,悔改めの福音,罪を赦すために 水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る 神権にして……」と宣言した。 (教義 と聖約13)

数週間の後、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが、ジョセフとオリバーにメルケゼデク神権を与えた。(「教会歴史記録」第1巻(英文)) **P**.40)

福音の第4の必要不可欠な要素である,「絶えざる啓示」は、神権の回復と共にもたらされた。ジョセフ・スミスが、神に関する知識と「福音の原則と儀式」に関する知識を受けたことから、ジョセフ自身、天から直接啓示を受けていたことは明白である。だが、

これで必要なもの全部がそろったわけではない。

時の絶頂におけるキリスト教会の会員は皆、聖霊の賜を受けた。聖霊とは 啓示を与えたもう御方であり、聖霊を 受けることは、霊的に生まれ変わることである。イエスがニコデモに言われ た言葉を思い出してみよう。「だれで も、水と霊とから生まれなければ、神 の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)

聖霊の賜を受けることは、「みたま」により生まれることである。主は、末日聖徒イエス・キリスト教会の神権役員たちに、「バプテスマを受けて教会に入りたる者に、聖典の示すところに則り、火と聖霊とのバプテスマを受くる按手を施して、教会員たることを確認」(教義と聖約20:41)するよう指示された。

神権と聖霊の力は、教会とその会員 に生命を与えるものであり、

「……聖霊の特別な職務は人の心を 照らして高貴ならしめ、身も霊も清め て神聖にし、善行をはげまし、神の事 を啓示するにある。」(ジェームズ・E ・タルメージ著「信仰箇条の研究」P 225)

この賜がなかったなら,教会は電気 のない発電所同様,全く無力なものと 化してしまうであろう。

このようにして、福音の新しい神権 時代の訪れを受けたジョセフ・スミス は、主によって導かれるままに、地上 にキリストの教会を再建する資格を得 た。そのような指示は、種々の啓示に よって与えられたが、その中に組織の 方法と日付けを明らかにしたものがあった。

この戒めに従順に、ジョセフ・スミス(2代目)は、1830年4月6日、神の戒めと国の法律に準じて、ニューヨーク州セネカ郡フェイヤットで、イエス・キリスト教会を実際に組織したのである。

これにより、「なぜ、すでに数多くの教会が存在するのに、当教会が組織されたのか」という質問の答えは明白である。主イエス・キリスト御自身がジョセフ・スミスに教会を組織するよう命じられたからである。

また主はジョセフに教会を組織する よう命じられたばかりでなく、その教 会の名前をも告げられた。

ひとつの事実を指摘するならば、当時キリストを代表していると主張していたあらゆる教会の中で、キリストの御名をつけていた教会はひとつもなかったということである。ジョセフは、ニーファイ人に対するイエスの教えから、キリストの御名をつけていなないは、絶対キリスト教会ではありえないということを知った。ニーファイの民の間で、キリストの教会に、どういう名をつけたらよいか論争があったとき民の間で教え導いておられたイエスはこう言われた。

「わが名をつけざるものはいかでわが教会ならんや。教会にもしもモーセの名をつけたらば、そはモーセの教会なり。あるいはまたある人の名をつけたらばそはある人の教会なり。もしわ

が名をつけて、わが福音を基となさば、 そはわが教会なり。」(¶ニーファイ27 :8)

この宣言から、私たちは二重の試験 法があることがわかる。つまり、キリスト教会は、(1)キリストの御名をつけ (2)キリストの福音の上に建てられていなければならないということである。

この最後の神権時代にあって、教会 の名について不確実なことのないよう 主はジョセフ・スミスに言われた。

「わが教会は、末の世に於て須らく末 日聖徒イエス・キリスト教会と称えら るべし。」(教義と聖約115:4)

モルモン教会という言い方は、通称である。

このように、回復された教会は救い主の二重の試験にとおっている。つまり、教会名にその御名をつけ、キリストの福音の上に建てられているのである。これについては、疑いの余地がない。その名も福音も、主イエス・キリスト御自身によってジョセフ・スミスに啓示されたのである。

話の終りにあたって、私は回復された福音とイエス・キリストの教会について、もう少し述べ、証をしたいと思う。

時の絶頂におけるイエスの伝道以来 今私が述べてきたこと程,万人にとっ て重要なできごとは,起きたためしが ない。あのできごとは,ジョセフ・ス ミスやその同僚たちのためだけでなく 全世界のためだったのである。

主は予言者に啓示を与えるにあたって、次のように言われた。•

「……汝ら民よ,遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ,共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがるる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなし、心として刺し貫かれざるはなし。

またわれ誠に汝らに告ぐ,世に住める人々よ。主なるわれは,これらの事を進んですべての人に知らせんと思うなり。

そは、われは人を偏り見る者にあらざれば、すべての人々をしてその日の速に来るを知らしめんと思えばなり。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。〔1831年において〕

されど主もまたその聖徒らを支配し その真中にありてこれを統治せん。而 して……この世に下る審判のために天 より降り来らん。」(教義と聖約1:1 -2,34-36)

上記の言葉が語りかけられてから140年以上たった今日,地より平和は取り去られ,悪魔は自分の領土をも支配し,主もまたその聖徒らを支配しておられる。主が「この世に下る審判のために天より降り来て」,その民の真中にありてこれを統治する日が近づいている。

しかし、今からその時まで、入も国家も、現在の歩みを続けるならば、大きな惨禍が私たちを待ち受けているととであろう。さらに多くの「戦につき

て聞かん、また戦のうわさにつきて聞かん。……また地震も至る所に起り、(さらに)多くの荒廃は来らん。……全世界は揺れ動き……」(教義と聖約45:26,33)と言われている。これは主御自身の御言葉である。

主はこの災難の到来を予言し、警告を与えられた。主はその災難から逃れる手段を与えるべく、福音を回復し、 教会を再建されたのである。

「……彼ら(地に住む人々)わが儀式より離れ去り、わが永遠の誓約を破りたればなり。

彼らは主の義を打ち建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。

されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス(2代目)を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶる様誠命を与えた」り。(教義と聖約1:15-18)

世の人々に宜べるよう与えられた戒めとは、イエス・キリストの福音の原則と儀式のことである。福音を回復し地上に教会を再建することにより、主は私たちのために、肉体的にも霊的にも敷いの手だてを講じられたのである。

きな惨禍が私たちを待ち受けていると 回復は、ダニエルの言った、国々のとであろう。さらに多くの「戦につき 分裂する日に「天の神は一つの国を立

てられます。これはいつまでも滅びる ことがない」……(ダニエル2:44) という予言の成就である。

またミカの言った、「末の日になって、主の家の山はもろもろの山のかしらにして堅く立てられ、もろもろの峰よりも高くあげられ、もろもろの民はこれに流れくる」(ミカ4:1)という予言の成就でもある。

また「御使が中空を飛ぶのを見た。 彼は地に住む者、すなわち、あらゆる 国民、部族、国語、民族に宣べ伝える ために、永遠の福音をたずさえてきて、 大声で言った、『神をおそれ、神の栄 光を帰せよ。神のさばきの時がきたか らである…』」(黙示録14:6、7)と いうヨハネの見た示現の成就となって いる。

まてとに、この回復とは、主の再降 臨にそなえてやって来るとペテロが予 言した、「万物更新」なのである。

(使徒3:21参照)

そして、私は、イエス・キリストの特別な証し人として、これらのことが皆真実であると証する。そしてさらに私の言葉を聞き、読まれるすべての人々に証したいことは、もし、あなた方が歴史上の事実と、回復にあたって啓示された真理とを調べ、へりくだって誠心誠意、イエス・キリストの御名によって御父を呼び求めるなら、御父は聖霊の力によって同様の確信を与えて下さるに違いないということである。私たちの主ィエス・キリストの御名により、アーメン。

注:この小文は、1900年から1941年に死去するまで 十二使徒定員会会員であったリード・スムート長老 の未刊行の説教(一部)である。この説教は1904年 5月25日ユタ州プロボで行なわれた。

1. 撤回代的增加 安**在**原则 图图设置

ROME KADAMES TO KERING

Service of Manager of

変転してやまな呼現実の生活にあって、歓喜と悲哀は決し てかけ離れたものではない。同じ通りを見ても一軒のシャッ ターは固く閉ざされ霧隣家のカナテンは踊る犬々の動きに揺 🏮 に取り組んで相手を苦しませよ。そうすれば困難はあなたの らいでいる。結婚式を終えて教会から出てぐる一行があるか と思えば、隣りの家からは葬式に出た人々が帰途につく。喜 悦と瞨惠が日常生活の鏡を輝かせもし,曇らせもする。涙と、二災難は明るい人々の前で耐えられないからである。 笑いは双生児である。ひとつのベッドに眠るふたりの子供の生 ように、ひとりが園を冷まして動き出すと、もうひとりも目へ (5) (24) (4) をさます。

人生で試練に邁っても落胆してはならない。試練は私たち

も美しく、完全な和音を引き出まには、どの鍵盤を叩けばよ いか御存知である。その音楽は悲哀と不幸の調べであるかも 知れないし、歓喜と幸福の高い調べであるかも知れない。 ※途切れることなく喜び趣訪れることを,よいと考えてはな 。 らない。太陽の日鑑しは一日中山頂を照らしの日暮まで最も 長時間とどまっているよしか表練谷が緑に満壌晒沃なのに対して、家庭の喜びを培おうではないか。この喜びの絶えざる新鮮 15、 油頂は不毛で何の果実も生み出さない。f連日快晴で曇天 なく悲哀なく幸福あるのみ、喜悦にゆぐ喜悦で苦痛がない、 このような状態はおよそ人生とは言えない。心力なくとも人間 らしい生活ではない。最も幸福な人の生活を取ってみよう。

である。

困難に邁っても決して逃げ腰で臨んではならない。徹底的 家を見ても過ぎ越していくだろう。不幸に見舞われても、忍 耐せよ。そうすればすぐにこっそり抜け出していくだろう。

とめどもなく悲しむのは愚かなことである。全く悲しまな いことは無情である。神は果物の木に言われた。「花を咲か せ実を結べ。」また人の心にも言われた。「実を結び、 花を 咲かせよ。」人の魂の大いなる開花は、苦悩の花である。太 のためになるように送られるものである。神は人の魂から最三に陽が雲を輝かしい織物を変え、豪華な色彩で光らせ、地平線 全体を栄光に満ちた衣装で飾って勝利を前面に書きつける。 同じように、光を放つ心の持ち主は、悲哀を希望に打ち負か させ、すべての暗やみを消滅させる。すると、動転させよう と進み出た災難も、勝利者のあとに続く凱旋行進に従う群衆 に見えてくる。

味は、「永遠」を思わせるからである。友だちと家を出て丘 を越え、野原を越え遊びまわる子供は、遊びにあきると、夕 方には家に向かい、疲れ太頭を母の胸にうずめる。同じよう に私たちも様々な義務や地上の喜びにあきたとき、人生の野 それは複雑に折りなす織物である。歓喜と悲哀からなってい… 原を横切り,丘をのぽって,永遠の家庭の入口に帰りつき,

る。歓喜は悲哀あるがゆえに、それだけ甘美に感じられるゆ >> 天忠実な者に備えられた部屋に入れるよう祈りたい。*

作 ビビアン・バーソロミュー 絵 テッド・ナガタ

ある朝,お父さんは朝食を終えるとこう言いました。「フィリバート,きょうはおまえひとりでガチョウの番をしてもらわなきゃならんぞ。」

フィリバートは目をまるくして、ドキドキしながら、なぜ?というようにお父さんとお兄さんのフラビアンの顔を見ました。フィリバートは夏の間中、毎日フラビアンといっしょにガチョウにえさを食べさせに、ふもとのだんだん畑に行っていましたが、ガチョウの世話は、いつもフラビアンがしていました。

お父さんは、こう続けて言いました。「フラビアンには屋根なおしをてつだってほ

しいのじゃ。」

フラビアンを見ると、うれしそうに目をかがやかせています。子供にとっ

て,父親といっしょに働けるようになることはたいへんなことです。

「ガチョウの番だって大切なんだ」とフィリバートは考えました。

お父さんがいなくなると,フラビアンは「おまえも屋根なおしを てつだわせてもらいたいだろう」と言って,フィリバートをひじで こづきました。

「ぼくだって、ガチョウの番をさせてもらっているよ」とフィリバートも負けずに言い返しました。

「きょうは、お兄ちゃんが、いつもガチョウの番のときに使っている棒をかしてもらってもいいだろう。」

「うん, 折らなきゃ貸してやるよ。あのろくでなしだって, しょっちゅうたたいていれば, 近づいちゃこないよ」とフラビアンは言いました。

フィリバートはろくでなしのことなんか忘れていました。

「ろくでなし」というのは、フラビアンが、たちの悪い雄のガチョウにつけたあだ名でした。ろくでなしはフラビアンがうしろをむくと、おそいかかってきてズボンのおしりや足をつっつくのでした。フィリバートはろくでなしのことを思い出して、冷や汗をかきました。フラビアンはろくでなしがおとなしくしているときも、これは前にくいつかれたお返しだと言って、よく棒でたたきました。

フィリバートはその長くてじょうぶな棒を手にとって「大事に使うよ」と約束しました。フィリバートは棒を2、3度ピュッ、ピュッとならすと、ガチョ

ウの囲いの方に歩いていって木戸を開けました。

ろくでなしは長い首をまっすぐにのばして,むれの先頭にたって, 'いばって出てきました。

フィリバートは、出口のわきに立って、ろくでなしに自分の棒を見せつけました。そしてガチョウを全部外へ出してしまうと、ガチョウを追って赤土の道を走っていきました。

畑に着くと、ガチョウたちはやわらかい緑の新芽をあさりはじめました。

フィリバートはろくでなしにやられないように棒をにぎりしめていましたが、ガチ ョウたちがだんだん畑を次から次へと歩きまわっている間は、さすがのろくでなしも フィリバートのことは気にとめないようすでした。

「ろくでなしのやつ、まるで番人気どりだな」とフィリバートは思いました。 そのときとつぜん、空の上で何かがうなる音が聞こえました。そしてその音は だんだん大きくなってきました。

フィリバートが、ふと見ると、ろくでなしも空を見上げていました。

「おまえもあれが何か知りたいのかい。ぼくと同じだな」とフィリバートは笑 いました。

フィリバートは、まだ飛行機を近くで見たことはありませんでした。フィリバートの村に飛行機が着陸したこ とはなかったのです。フィリバートは、飛行機は遠い国からマダガスカルにやって来るのだということはよく知 っていました。お父さんは,よくマダガスカル共和国はアフリカ大陸の東岸のインド洋にある島だと話してくれ ました。

フィリバートは「この飛行機は、雪と氷のずっと北の方の国から来たのかもしれないな」と考えました。彼は いつか空を飛んで海をわたり、見知らぬ国々を見て歩く日のことを想像しました。

飛行機が見えなくなっても,フィリバートは自分に語りかける遠いすばらしい国々のことを考え

ていました。

ふとわれにかえってあたりを見ると、ろくでなしもほかのガチョウも見あたりま せん。

「ちょっと目をはなしたかと思ったら、ろくでなしのやつが、ガチョウをみんな つれて行っちゃった。ガチョウがいなけりゃ家に帰れやしないや」とフィリバー トはべそをかきました。そして、となりの畑へ走って行くと、だんの下にいたガ チョウに、あやうくつまずきそうになりました。ガチョウたちはびっくりして、

ガアガアわめきたてました。「ごめん, ごめん! いまにも泣き出しそうだったフィリバートの顔は 笑顔になりました。

「おまえは、みんなをつれて行ったんじゃなか ったんだね。ぼくのかわりに番をしてくれてた

のかいありがとう。」フィリバートはろくでなしにあやまりました。

ほっとひと息つくと、フィリバートは小川で水を飲み、背の高い草のかげに腰 をおろしました。そして、むれをみはりながら棒をわきにほうり出して、ろくで なしが羽づくろいをするのを見ていました。

「お兄ちゃんはおまえが羽づくろいをしているときでも,おまえをいじめていた



っけ。でも、ぼくはそんなことはしないよ。おまえは王様みたいでなくちゃいけないもの」とフィリバートは笑いながら言いました。と、急に畑のむこうで大きな音がするので目をあげると、たちの悪い牛がしげみをふみたおして出て来るのが見えました。

牛はフィリバートを見つけると、土をけちらして、たてごとのような角を向けてむかってきました。フィリバートはろくでなしがおそろしい声をたてるのを聞いて、冷や汗をかきました。

以前ろくでなしが相手をおどそうとして、同じような声を出すのを聞いたことがあったからです。牛がつっこんでくるか、ろくでなしがおそいかかるか、いずれにしてもたいへんなことになると思うと、フィリバートは棒もにぎれないほどおびえてしまいました。

ふと牛から目をそらしてガ チョウたちの方を見ると,ろ くでなしがつばさをひろげ, 首を前につき出して牛に突

進して行くのが見えま

した。

牛はろくでなしを見る

と、土をけることをやめ、向きをかえてしげみの中へにげこんでし

まいました。フィリバートが立ちあがって空地を走っていくと、ろくでなしは牛を追いかけて走っていました。 フィリバートはうれしくなりました。

ろくでなしは、いじわるなガチョウではなくて、ほんとうは親切なガチョウだったのです。牛が遠くへ行って しまうと、ろくでなしは追いかけるのをあきらめて、むれの方へ、ヨチョチもどってきました。

フィリバートは待ちきれずに走っていき、ろくでなしを抱きあげてやりました。ろくでなしは頭をフィリバートの胸におしつけてきました。

「おまえはろくでなしじゃなくて、ろくでありだよな。ろくでありじゃなくちゃ、ばくを助けてくれたりしないものな」とフィリバートは言いました。

夕方になると、フィリバートはろくでありとならんで、他のガチョウを

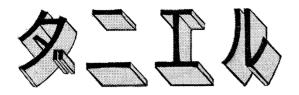
家へつれて帰りました。フラビアンはそれを見て目をまるくしました。

フィリバートは木戸のところでおやすみを言う前に、ろくでありをやさしくだきしめてやりました。

「気をつけろ**!**ろくでなしにくいつかれるぞ」とフラビアンはさけびました。

「そんなことはしないよ。」とフィリバートはわらいながら言いました。「ぼくはきょうからこいつのことを『ろくであり』とよぶことにしたのさ。」





メアリー・L・ラスク

ある夜のこと、ネブカデネザル王は夢にうなされて 目をさましました。よく朝早く、王は博士たちをよび 博士たちにこう言いました。

「私は夢を見たが、その夢の意味を知りたいのだ。」 すると博士たちは言いました。

「王よ, その夢をお話しください。私たちがその夢 をときあかしてごらんにいれましょう。」

「その夢が思い出せないのだ」と王は言いました。 そしてこう続けて言いました。「もしお前たちが私の 夢がどのような夢であったかを言い当て、その夢の意 味を説明することができるならば、ほうびをとらせよ う。また高い位につけてやろう。」

しかしネブカデネザル王は、博士たちがだれひとり、 自分の夢を言い当てることができないことを知ると、 大変おこってバビロン中の博士たちを死罪にするよう にという命令をくだしました。

さてそのころ、このバビロンの地にダニエルという 青年が友だちといっしょに住んでいました。ある日、 そのダニエルのところへ王の使いがこの命令を知らせ にやってきました。ダニエルは大変おどろいて、自分 が王の夢を言い当て、そのときあかしをするから、そ れまで博士たちを殺さないでくださいとたのみまし た。

そして、ダニエルとその友だちはネブカデネザル王 の夢がどのような夢なのか、そしてその夢にはどのよ うな意味があるのか教えてくださいと祈りました。そ の夜ダニエルは啓示を受け、その夢と、夢のときあか しを知ることができました。ダニエルは神に感謝して こうさけびました。「神のみ名にとこしえにみ栄えが ありますように。知恵と力の神よ,私はあなたを讃美 し,あなたに感謝いたします。父なる神よ,あなたは 王の悩みごとを私たちに教えてくださいました。」

ダニエルは、ネブカデネザル王の前で、だれもできなかった王の夢のときあかしをしました。ネブカデネザル王は、夢をときあかしたのはダニエルではなく、神であることを知り、こうして王はほんとうの神を知ることができました。

ダニエルが夢を言い当て、そのときあかしをすると 王はひれふしてダニエルをおがみ、こう言いました。 「ほんとうにあなたがたの神はまことの神だ。あなた がたの神は、かくされたことを明かされた。あなたが たの神のわざは真理にみちている。」

のちにネブカデネザル王はダニエルをバビロン全州 の総督とし、バビロンの博士たちを管理する人にしました。

ネブカデネザル王の死後,バビロンの都はダリヨス 王が治めることになりました。ダリヨス王は国を治め るために120人の総督をたてました。そして総督の上 に3人の総監をたて、ダニエルをその総監のひとりに し、さらにダニエルに総監の長の位を与えて全国を治 める者にしようとしました。

これを聞いた総監や総督たちはダニエルをねたみ、 心にいかりをいだいてダニエルをおとしいれようとた くらみました。

「彼にもおちどはあるはずだ。それをダリョス王に 申し上げよう」とある総督は言いました。しかしだれ もダニエルのおちどを見つけることはできませんでし た。ダニエルの仕事はかんぺきでした。

今度は総督たちはダニエルが自分の神の律法に従っていることをつきとめ、そのことを利用してダニエルをおとしいれようとしました。

総督たちはダリョス王のところへでかけて行って, 王をほめちぎり,今から30日の間にダリョス王以外の 人や神を礼拝する者があれば、その者をししの穴へ投 げ入れるというおふれを出してくださるようにと説得 しました。ダリョス王は、これは自分の力を示すため によい法律だと考え、このふれを出しました。

ダニエルは毎日三度、自分の神に祈りをささげていました。ある朝早く、ダニエルがひざまずいて祈っていると、ねたみ深い総督たちがやってきてダニエルを捕え、ダリヨス王の前へつれて行きました。総督たちはダリヨス王に、ダニエルは自分の神に祈っていたと報告しました。そして、「王よ、あなたは御自分が出されたふれのことを忘れてはおられませんね」と念をおしました。

王はそのふれのことを思い出しました。王はダニエルを大変愛していたので、総督たちが自分にふれを出させてダニエルをおとしいれたことを知り、腹を立て大変悲しみましたが、もうその法律を変えることはできませんでした。・

ダニエルがつれて行かれるとき,王はダニエルにこう言いました。「どうか,あなたがいつもつかえている神が,あなたを救ってくださるように。」

王はダニエルをししの穴に投げ入れ、穴を石でふさ ぎました。

ダリョス王は宮殿へ帰りましたが、音楽も聞かず、 食事もせず、眠りもしませんでした。そして夜が明け ると、急いでししの穴へ行き、ダニエルの名を呼びま した。

ダニエルは落ちついた声で答えました。「わたしの神はみつかいを送ってくださいました。私はけがひとつしておりません。」

ダリョス王は喜んで、地に住むすべての人々に、ダニエルの神はまことに生きてましまし、永遠に変わらぬお方であること、また人を救ってくださり、天にも地にもしるしときせきを行なう力を持っておられることを知らせました。



まるで大自然の花火を思わせるような、ものすごいいなずまでした。近くの山はひどいあらしです。家のドアの前で、おばあさんとおかあさん、それに私たち子どもが山の方をながめていました。そのうち、いなずまとかみなりのあいだの時間が短くなって、だんだん近づいてくるのがわかりました。

ふいにおかあさんが,ド アのまんなかのところにうこことばしまっている私をほとんど同じとんどした。 でした。それとはどにリバリーレンがすまるんがのからながである。 パリがからいながまなんがでいたができるがでいるがでいるがでいるがでいた。 ができないでいたがでいた。 はこのにでいた。 はこのにでしょう。

おかあさんは,なぜ私を つきとばしたのかぜんぜん わからないそうです。私が わかるのは,ただおかあさ んの機転で,私の命が救わ れたということです。

年月がたって,むかし住 んでいたその家の大木の大

きなさけ目を見るたびに、感謝の気持でいっぱいになります。それは、私のおかあさんに、またほかのたくさんのおかあさんにはかりしれないたまものをおあたえくださった、父なる神さまへの感謝です。神さまは、そういうおかあさんたちをとおして、ひつようなとき

にひつような助けをあたえてくださいます。

私のおかあさんは、そのようにして、助けがいることをなんどか知りました。あるあらしの夜、おかあさんはおとうさんに、私をさがしてくるようにたのみました。私はそのとき、つまずいた馬のせなかからほうりなげられて、こおりかけたどろ沼の中でもがいてい

ました。おかあさんは,助 けがひつようなことを知っ ていたのです。

ある人がこう言いました。「神さまは同じときに みんなのところにいられないので、おかあさんをおつ くりになりました。」

この世の中に生まれてくる子どもたちに、神ささいまくりものをくださっています。それは、「キリストの光」または「真理の光」とよばれています。こんんなくりものを使えば、どんのないさいである「よいものである「よいもの」を見わけることができます。私たちはこれを、「資心」とか「神

た。 た。 かいくので くころ。 ないので ないので ないので ないので ないので ないので ないで ないので とといった とといった とといった まので といった。 まので といった。 まいった。 たいった。 まいった。 たいった。 まいった。 たいった。 たった。

のみたまの声」とかよぶこともあります。

バプテスマを受けたあと私たちは祝福として、べつのおくりものをいただきます。それは「聖霊のたまもの」です。このたまものは、なんでもほんとうのことを教えてくれますし、前のことをみんな思い出させて

くれます。また、これからおこることさえも教えてくれるのです。イエスさまはそうせつめいしてくださいました。

みなさんがおとうさんやおかあさんになるときは, 神さまからそのようなたいせつなおくりものをいただ き,子どもをそだてるのにひつような知識があたえら は、おとなになってからも正しい判断ができるように なり、やがてはかしこいおとうさんやおかあさんにな れるのです。

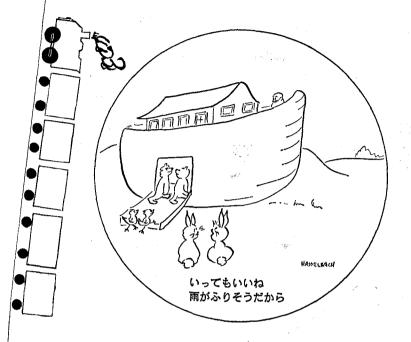
私の経験から、信仰のつよいおかあさんにはとくべつなたまものがあるようです。これはたぶん、神権の仕事や、世の中の仕事のためにいそがしいおとうさん

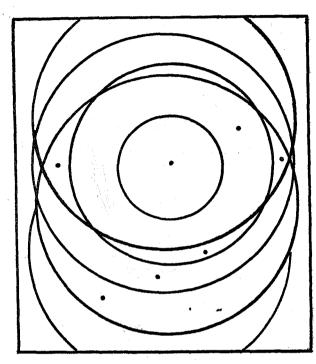


れるように準備しなければなりません。このような、 両親が受ける天からのみちびきは、家を安全に守りま す。また両親は、子どもに正しい原則を教えて、くん れんする責任があります。そのようにして子どもたち にかわって、君たちをそだてるのに、君たちの一番近くにいるおかあさんにあたえられた、とくべつな祝福なのでしょう。おとうさんは家族の「頭」です。そしておかあさんは「心臓」なのですから。

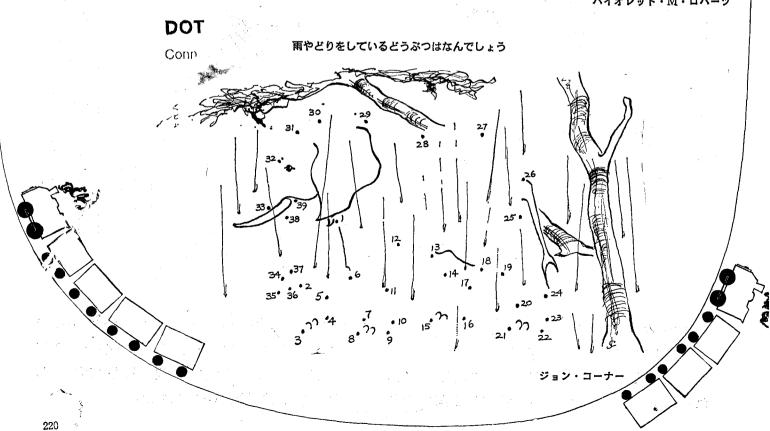


みんなであそぶときにつかうものですよ。 てんの ついているところをぬりつぶしてみましょう





バイオレット・M・ロバーツ



主は生けりと知る



十二使徒評議員会会員 ブルース・R・マッコンキー

主が私と家族に、そして全世界の忠 実な聖徒たちに注ぎたもうたかくも豊 かな祝福に対して、いかなる表現をも ってしても、またいかなる言葉でも表 わしえない程に感謝している。私は今 聖霊の力に導かれて、私たちすべての 者が携わっているこの栄えある御業の 真実さと神聖さを証できるように切に 求めている。私はまた、今朝からこの 場に臨んでいる光明と真理と啓発のみ たまが引き続き皆の心に宿って、あな た方が啓発され、私の証が真実である ことを悟れるように祈っている。

教会員として, またこの地上における神の王国の会員として, 私たちは,

恵みと慈悲に満ちた神が常に忠実な聖徒たちに与えたもう,奇しくして栄光あり,奇跡を起こすみたまの賜を享受している。現代の啓示に記されている中で第一にあげられるみたまの賜は,証の賜,啓示の賜,神の御業の真実さと神聖さを知る賜である。この賜はイエスの証として記されており,それは予言のみたまでもある。これこそ私に与えられている場である。私はこの御業が真実であることを知っている。人

10000

私は、イエス・キリストが生ける神 の御子であり、世の罪のために十字架 にかかられたという全き知識を持って いる。私は、ジョセフ・スミスが碑の 予言者であり、彼を通じて今日再び永遠の全き福音が回復されたことを知っている。また私は、この末日聖徒イエス・キリスト教会がこの地上における神の王国であって、神の承認と是認のもとに、ハロルド・B・リー大管長を頭として、今なお引き続きその務めを果たしており、「人の子」の再臨のために人々を備えさせていることを知っている。

またさらに私は、主が今日、主を信じる人々に、古代の聖徒たちが享受したと同じすばらしい賜を授けておられることを知っている。主は、予言のみたまと啓示のみたまを訴昔の聖徒たちにお与えになったと同様に今日の私たちにもお与えになったと同様に今日の私たちにもお与えになったと同様に今日の私たちにもお与えになったと同様に今日の私たちにもお与えになっている。永遠の福音の栄光とすばらしさを「汝に告げんとす」と主は言われる。「われ今汝に来りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。「そもも見よ、これは啓示の『みたま』なり。」(教義と聖約8:2、3)

られた方法である。宗教は神から来る ものである。神以外にその源はない。 真理であれ,またこの世にあって人の 心に喜びと平安をもたらし,来るべき 世での永遠の栄光に備えさせるもので あれ,すべては主に源を発している。 人は自身を復活させることができて も,数いの宗教を創造することはでき ない。

神は、過去の各神権時代の人々に啓示されたと同じ基盤に立って、今日、救いの真理を私たちにお与えくださっている。いつもそして今も、神は使徒や予言者や正しい人々に救いの教義と真理を啓示され、世に向かってその真理を教え、真理について証するようそれらの人々に命じておられる。使徒や予言者は、その教えが主からのものであることを証する者である。主の代理人や僕たちは、常に真理について証をする。今日私は、真理の証し人としてここで立つ特権に浴していることを喜んでいる。

主のみたまがこのすばらしい会衆の上に注がれている今日,私は自分の手を直角に曲げてあげ,自分の心と霊の中に誓約する特権があることに感謝している。また、神の王国を管理するようにと召された偉大な大管長会を支持し、その勧告に従えることに感謝している。ハロルド・B・リー大管長は聖見者であり、啓示と知恵のみたまで満たされた人であり、主と親しい交わり

を持っている人である。N・エルドン タナー副管長は高潔さとクリスチャ ンの基本的な諸徳を体現した人であり 主を受け入れ, 主の戒めを守る人であ る。マリオン・G・ロムニー副管長は霊 の巨人、正義の説教者であり、主を知 り主の教えを説く人である。ロムニー 副管長と私は同じ家系である。私が召 しを受けたあと、ロムニー副管長は私 に向かってこう言われた。「祖父の レ ッド(レミュエル・ハーディソン・レッ ド) は喜んで私たちを迎えてくれるこ とだろう。」それに答えて私は言った。 「祖父がいる所へ行けるような生活を しますよ。」するとロムニー副管長は 「私もそうするよ」と言われた。

この時代に神の王国の鍵を握る兄弟 たちについて、主は次のように言って おられる。「彼らはわが教会の大管長会 として召したる者なり。彼らに従え。」 また「……彼らの上に……すべての支 部教会の重荷を負わしめたる故なり… …われを受け入るる者は、わが遣わし たる者すなわち……大管長会を受け入 るるなり。(教義と聖約 112:18-20) 私は全身全霊をもって教会の大管長 会を支持し、この地上のすべての国々 で真理を追い求める聖徒たちと誠実な 人々の双方に、大管長会が主のみここ ろとその思いを伝えるままに、彼らの 口からもれる啓示と真理の光にそって 歩みたいと願っている。私は主の御業

が真実であることを知っている。

私は皆さんひとりびとりに申し上げたいと思う。私は、この聖会にあって教会幹部を支持し、リー大管長がみたまの力で語られるのを聞いている間、主のみたまが注がれて、真理と正義の原則にそって自分自身の生活をささげ直そうと全員が考えたのではないかと確信している。この真理と正義の原則のために、気高い指導者たち、すなわちリー大管長が名ざした教会の歴代大管長は生き、働き、そして天に召されていったのである。・

過去はどうであれ、私たちは次のことを誓約しようではないか。主のあらゆる儀式にそって罪なく歩むこと、また神の戒めを守り、この栄えある御業の真理さと神聖さを証する者として生きることを。この栄えある御業は、洪水のように地に広まり、大水が海をおおうように地球をおおうに違いない。

おお神よ。願わくば、私と家族、またイスラエル家のすべての忠実な者をして、真理と光のうちに歩ましめたまえ。また、教会外にあっては、地上のいずこにても見いだしえない交わりと関係を、また共同生活を享受せしめたまえ。やがて来るべき王国と館に存在する永遠で完全な同じ精神、同じ親交を享受せしめたまえ。

以上すべてのことを, 証と感謝の気持をもって, へりくだりまた喜びつつ主イエス・キリストの聖なる御名によって申し上げる。アーメン。*

人間をすなどる 漁師として



十二使徒評議員会補助 ジェームズ•**E**•ファウスト

愛する兄弟姉妹,友人の皆様,昨日朝,新しい大管長会としてリー大管長と副管長たちを支持する場に立ち会ったことは感動的でおごそかな経験でした。私はこれから話すほんの短い時間それと同じ精神で私を支持してくださるよう,謙遜に願っています。

先日の木曜日の朝,リー大管長から 召しの知らせを受けたとき,私はこれ までにない感激と感動を覚えました。 そして人の心に浮かび得る思いのうち で最も厳粛な思いにとらわれました。 どうして私が,と幾度も幾度も自問し ました。深く尊敬する教会幹部の偉大 な兄弟たちの中に私が加えられるとは どうしても考えられなかったのです。

私に弱さや欠点があるので、主が私 に慈悲をたもうようにと祈っていま す。私は記憶にある限りずっと以前か ら、イエス・キリストとキリストの教会の神聖さについて証を持っていました。私にとって信じることと証することはいつも容易でした。しかしもし教会幹部の中で最も弱く資格に乏しい者があるとすれば、それは私であると思います。また私はブラジルで伝道をしたので、教会幹部の中でポルトガル語を話せるのは私ひとりです。

私は人生を共にすることができ、しかも永遠にいっしょであるという希望を与えてくれるルス・ライト・ファウストに心から感謝したいと思います。彼女は妻や恋人を越えた私の分身です。私は父親としても成功しなければこの召しに成功を収められないことと、子供たちが私の生活にとって常に大切なことを彼らに知ってほしいと心から思います。

私の父は一番すばらしい父親です。 私は父の良き名をいつも大切にしていきたいと思います。未亡人となった私の母は、今テレビで皆様といっしょにこの様子を見ています。母はきっと泣いていることでしょう。幼い頃私はよく母の膝の上で5人の息子たちのための祈りを聞きました。母に、この息子は今も母の信仰と祈りを必要としていると告げたいと思います。

私は、私のための人生と私自身の人生がいつも同じではないし、同じであってはならないことを承知しています。過去22年間、先日の木曜日まで私は弁護士でしたが、木曜日から、私は悔い改めようと努めてきました。私は漁師のひとりとなって兄弟たちを永遠の生命の網の中にすなどるよう努力したいと思います。教会において、職業において、さらに政治活動にあって、私の言動が人を傷つけていたならば、

へりくだって、許しを乞いたいと思います。私はこの召しを知っているある友人に、「私を知っている人たちは、『人はだれも召さないので、主がジェームズ・ファウストを召されたに違いない』と言うであろう」と話しました。

私はリー大管長に、私が彼と彼の代表する御方を全身全霊をもって心の底から支持していることを知っていただきたいと思います。

私はリー大管長の手によって監督に 聖任され、またステーキ部長会に召さ れました。彼は私のおとなの人生にと って偉大な愛する教師であり、気高く 善良なあらゆる人々の模範です。タナ ー副管長は父親のように、いつも話を 聞き、思いやりと親切をもって助けて くださいました。私がいかに彼を愛し 敬っているかを彼はご存知です。

ロムニー長老はご存知の通り、豊から霊感と知恵に恵まれた方で、特別な親友です。彼に対する尊敬はとどまる所を知りません。ヘンリー・D・モイル長老およびヒュー・B・ブラウン長老から人生に大きな影響を受けたことをも告げたいと思います。この方々は地の偉大なる人々です。

宣教師時代の同僚,監督会,高等評議員会,ステーキ部長会でいっしょに働いた人々,愛する友人たち,十二使徒地区代表などの私の人生に祝福をもたらした人々に感謝します。私は彼らから多くのことを学びました。

私は聖なる敷い主に心低く従う者として、世の敷い主である主の神性を証し、現在ハロルド・B・リー大管長を長とする末日の主の教会が神の教会であることを証いたします。イエス・キリストの御名により、アーメン。



これまで数世紀の間、一部の学者は旧約聖書をキリスト教以前の(従って劣位にある)古代の聖典とみなしてきた。しかし死海写本が発見され、翻訳されるや、近代の学者たちは、キリスト教の起源が実際には旧約時代にさかのぼることを発見して驚いている。

現代に語りかける旧約聖書

W・クレオン・スカウセン ブリガム・ヤング大学 古代聖典学部教授

これまで数世紀の間,一部の学者は 旧約聖書をキリスト教以前の(従って 劣位にある)古代の聖典とみなしてき た。しかし死海写本*が発見され,翻訳 されるや,近代の学者たちは,キリス ト教の起源が実際には旧約時代にさか のぼることを発見して驚いている。

死海写本には、キリストが伝道される前には存在しないと考えられていた概念や教義、慣行が登場する。実際、死海写本の内容が明らかになるにつれ一部の学者はキリスト教は決してイエスが始めたものではないと考えるようになった。イエスはただ、神が最も初期の頃から人類に与えられた豊かな宗教上の文化を回復したにすぎない。こう考えると旧約聖書に取り組む姿勢が変わってくる。

しかし以上のことはどれひとつとして、末日聖徒にとっては驚きではない。末日聖徒は、イエス・キリストの福音がアダムに教えられていたことを知っているからである。(モーセ6:51-68)救い主の使命、悔改めの教義、水に沈めるバプテスマが必要なごと、そして聖霊を受けることについてアダムが知らされていたことを、末日聖徒は承知している。さらに近代の啓示は、アダムが聖なる神権を授けられ(教義と聖約84:16-17)、エンダウ

メントを受けたこと (モーセ5:59), そして完全な言葉で福音の全容を記録 するように命じられたこと (モーセ6:5,6)を明らかにしている。

アダムはこのように神聖な知識を授けられ、輝かしい神権時代に住んでいたので、子孫にイエス・キリストの福音をそっくりそのまま教えることができた。エノクも民に同じように伝えた。ノア、アブラハム、モーセも然りである。近代の聖典は、旧約聖書の予言者がキリストのことを証していることを明らかにしている。(ヤコブ7:11)

エウセビオスが言っているのは正に このことである。およそ紀元後 260 年 から 340 年にかけて生存したエウセビ オスは、最初の偉大な教会史家であっ た。彼はキリスト教を世界最古の宗教 と呼んでいる。

「…私たちの生活様式も行状も、宗教上の教義も、最近私たちが創り出したものではない。昔、神に愛された人々が、直感的な理解に基づいて定めたのであって、人が最初に創造されたとき以来存在したのである。

では、キリストにつく私たちが、昔 の神に愛された人々と全く同じ生活様 式に習い、同じ宗教を信じると告白し て何の不都合があろうか。従って、キ リストの教えによって私たちに伝えられた完全な宗教が目新しいものでも珍らしいものでもなく,もし真実を述べるなら,最初の真実の宗教そのものであることは,極めて明らかである。」

(エウセビオス,「教会史」4:4,15) 旧約聖書が福音に欠くことのできない書物であると認識され始めるや、その威信も高まり始めた。しかし学者たちは、どうしてそれほど多量の部分が、特にイエス・キリストの地上の使命や福音に関する予言や教えが失われたのか、疑念をぬぐい切れないでいる。死海写本が、キリスト以前に「キリスト教」が存在したことを明らかにしたとき、非常な動揺が見られたのもうなずける。

ここで、キリストの最初の降臨に関する予言が、ユダヤ教の律法学者にとってどんなに途方もないものに聞こえたかを忘れてはなるまい。予言は偉大な救世主が人々の中に来るが、自分の民に殺されるであろうと告げていた。そのような考えは、国が衰退の一途をたどる時代にあって、権威をかさにくいまわしいものであったに違いない。それで彼らはこのような聖句を聖典から除き始めた。しかし少なくともひらりの予言者、ニーブァイはこのような動

* 死海写本:死海の近くにある洞窟で発見された古文書。1947年,偶然発見されて以来,数回にわたって発見されている。

きを事前に知っていた。 (Iニーファイ13:28, 29)

幸い彼らは、救世主について記している偉大な章、イザャ書53章を見逃がしている。しかしキリストの最初の降臨に関するほかの聖句は、ほとんどみな軒並み除かれている。時にはある書全体が除かれていることがある。例えばゼノス、ゼノク、ニーアムの救世主に関する無類の本文が除かれている。

しかし、福音が回復されて事態は全く変わった。旧約聖書の歴史と教義の全容が、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠、霊感訳聖書の溢れんばかりの啓示によって、明らかにされている。

これらのすぐれた聖典は、他の出典 全部を合わせても及ばないほど価値あ る貢献をしている。イエス・キリスト の福音が古代からあったことを決定づ けるだけでなく、旧約聖書全篇が古代 におけるキリスト教盛衰の繰返しを記 した歴史であることも明らかにしてい る。

さらに近代の聖典は、主が旧約聖書 を現代の人にも非常に価値のある書物 であると見なしておられることを明ら かにしている。旧約聖書は、救い主が 地上で使命を果たして、成就を見、無 用となった現世的な戒め、すなわち律 法、この律法を扱ったわずかな部分を 除いて、すべての部分が現代の問題に 解答を与えうるものである。

旧約聖書の研究で最も興味をそそる のは、神の僕がどれくらい今日のこと を知らされたか、ということである。

末日のことに関してイザヤ以上に記録している人はいない。イザヤがアメリカやインデアン、それにモルモン経の出現について知っていたことを、末日聖徒はよく承知している。イザヤはジョセフ・スミスが生まれる2,500年前からジョセフを知っていた。またニューヨーク州パルマイラの聖なる森における最初の示現で語られる言葉も知っていた。

イザヤは、初期の教会でマーテン・ハリスが果たす役割を知っていた。またある「読み書きのできる人」が果たす役割も心得ていた。それは19世紀半ばの古典学においてアメリカきっての学者であるチャールズ・アントン教授であった。イザヤは、マーテン・ハリスがアントン教授にモルモン経の版のことを話すとき、彼がなんと答えるかを知っていた。(イザヤ29章)

現在、エジプトに売られたヨセフも イザヤと同様、現代のことに関する啓 示を数多く受けていたことがわかって いる。ヨセフは、自分の子孫の中から ジョセフ・スミスが出ることと, その 名前がジョセフで, その父の名前もジ ョセフであることを知っていた。ヨセ フはまた,現代のショセフが最後の大 いなるイスラエル集合の業を始めるこ とと、モルモン経をもたらして、聖書 と合わせてひとつとし、ふたつをひと つの聖典とすることを知っていた。こ の若い予言者が卑賤の身から業を始め るが、ついにはモーセのように偉大な 力強い指導者になることも知ってい t_{\circ} (I = -7 + 7 + 3 = 7, 11 - 21)

以上の古代の族長ヨセフの言葉が非常に印象深かったので、後世モーセはこれらの言葉を創世記の50章に入れた。遺憾ながら一部の古代の律法学者が故意にこれを取り除いたので、今日再びこれを回復する必要があった。(霊感訳聖書 創世記50章、『ニーファイ3:5-24)

創世記が変えられているとは言え、 正統派のユダヤ人は、ヨセフの末日の 子孫が偉大な救世主のために道を備え るという伝承を豊富に受け継いでい る。この現代のヨセフのことをユダヤ 人は「救世主ベン・ヨセフ」と呼んで いる。これはタルムードやミドラシュ それにタルグムに出ている。

これらの伝承は、末日の神の僕がヨセフの子エフライムの子孫であることと、その業はエリヤが帰るとき(マラキ4:5,6)とほぼ時を同じくして

始められること、そして彼は最後に殺 されるであろう、と伝えている。

以上の話は全部、エルサレムのヘブライ大学で教鞭をとっていた故ヨセフ・クラウスナー博士の著書に出ている。クラウスナー博士は、その著書「イスラエルの救世主観」(ニューヨーク、マクミラン社、1955年)の第3部9章全体を「救世主ベン・ヨセフ」の伝承にさいている。クラウスナー博士は、ユダヤ人の聖典の中に一度も出て来ないのに、どうしてこの伝承がこれなに広く、深く浸透しているのだろうかと、いつも不思議に思っていた。

もしクラウスナー博士がもう少し長生きしていれば、聖地で聖典の研究をしているモルモンの学者に会っていたかも知れない。そうすれば博士にこの謎を解いて説明し、ユダヤ人のこの年来の期待が成就したという良きおとずれを伝えることができただろう。「救世主ベン・ヨセフ」はすでに来たし、エリヤも来たのである。

末日にヨセフ(ジョセフ)とエリヤ (エライジャ)が来ることは、ユダの 支族にとって偉大な新しい世紀の夜明 けを迎えたことを意味していた。とこ ろがユダヤ人が自分たちの期待してい るふたつの前兆がすでに現われたこと を知らずに、どんどん予言を成就して いることは興味あることである。

旧約聖書の予言者は、末日にユダヤ人が再び昔の故国に帰るだろうと言っている。(イザヤ11:12,61:4, 1 15,30:3) 予言者たちは、その地が不毛の乾ききった状態から、美しく実り豊かな、肥沃な土地に変わるだろうと予言している。(イザャ35:1,41:19,20,55:13)

旧約聖書の中には、エゼキエル書に記されているような様式の新しい神殿がエルサレムに建てられるだろうという予言がある。(エゼキエル40-43章)近代のユダヤ人は、さらに彼らの中からレビの子孫(昔からコーヘンと呼ば

れている)を選び出して、その人たちに、神に喜ばれる古代の犠牲を「義しきに適いて」捧げさせなければならない。(エゼキエル3:18-27,44:9-27,マラキ3:3)

聖典はまた、この業は何にも増して大切であるからシオンに対抗して戦ったり、神の御旨を阻害したりする者はユダヤ人であろうと、異邦人であろうと必ず滅ぼされると警告している。(Ⅱニーファイ10:16)神は、ユダヤ人やアラブ人、異邦人を問わず正義の人々が、また神の御声に耳を傾けるすべての人々が、手をたずさえ、福千年に備えて世界の平和と繁栄のために力を尽くすことを望んでおられる。

しかし福千年が来る前、ユダヤ人の 前途には予言者たちがハルマゲドンと 呼んでいる恐しい事態が待ち受けてい る。これは大いなる苦悩の時となるだ ろう。イザヤは「よろめかす大杯を、 滓までも飲みほした」と表現してい る。(イザヤ51:17)異邦人の国々が 一大連合をなしてユダヤ人を征服しよ うとするのである。エゼキエル書のあ る1章は全部この大攻撃の記述に費や されている。(エゼキエル38章)他の 箇所では、この戦いが3年半続くと告 げている。

コダヤ人の指導者でこの絶対絶命の 苦境から民を敷い出せる者はいない。 しかし主は、神権の力によって異邦人 の大軍をとどめることのできる力強い 予言者をふたり起こされる。それでも 異邦人は最後には攻め込んでこのふた りの予言者を殺すだろう。(黙示11: 2-7)そしてエルサレムの半分が略 奪される。ふたりの予言者の死体は3 日と半日、町にさらされた後、天に取 り上げられて敷世主の前に立ち、民に 代わって訴えるだろう。

聖典によれば、救い主はオリブ山上 に姿をあらわされる。するとそのとき エルサレムの東にあるオリブ山はまっ ぷたつに割れ、そこに道ができるので エルサレムに生き残った者は安全に逃 れることができるのである。(ゼカリャ14:2-5,黙示14:1)そして同時に異邦人の軍隊は、神の力によって滅ぼされる。生き残る者は6分の1にすぎない。(エゼキエル39:1-8)

そこでユダヤ人は至上の思慕を感じながら自分たちの救世主のまわりに集まるが、彼らは救世主の手にある方ことはかならぬナザレのイエスであるなだんだん彼らにわかって、人祖先がセエスが地上に来られたときに祖先がイエスをキリストであると認めず、十違いない。そのときからユダヤ人にとういうとない。そのときからユダヤ人にこういうとない。をのとれたと共にいますことを聞いたから。」(ゼカリヤ8:22,23)

旧約聖書は非常に興味深い書物である。ここには旧約聖書の宝庫からほんの数例を取り上げたにすぎない。最近研究されたもので,現代に関係のある深遠な主題がほかにも数多くあって、いずれも劣らぬ興味深いものばかりである。

そのひとつは、犯罪や奴隷制、幽閉 戦争、貧困、不正行為、放縦、不道徳 などを除去しうる文明の特別な型を記 した描写である。そのような文明に必 要な律法や原則が、神から啓示され、 実際、旧約時代に幾度も実施されてい るのである。

神はまた,地方自治体や個人の自主性を犠牲にすることなく,莫大な人口を最も効率的にまた経済的に統治する 理想的な神権統治の形態をも啓示された。

今日の社会問題で、旧約聖書が扱っていないものはほとんどないと言っても過言ではない。旧約聖書が現代の人のために書かれた現代の書物であると言うのはそのためである。旧約聖書は現代の私たちに語りかけているのである。



「神の御手に 使われる器」

七十人最高評議員会会員 レックス・D・ピネガー

きょう皆さまの前に立つと、北部カリフォルニア・バージニア伝道部のある宣教師から来た手紙の中のひとつの聖句を思い出す。その聖句はアルマ書第29章9節、10節であるが、そこには私の思いが述べられているので読みたいと思う。

その御手を私たち皆が思い起こすよう, イエス・ギリストの御名によって 祈り奉る。アーメン。

ジョセフ・フィールディング・スミス

福音の学徒

レオン・R・ハートショーン

「主が信頼し信任され、人々の中にあって主を代表して立てる資格のある人を、主が見いだせないときは決してないのである。これは私の証であり、それが真実であることを喜んでいる。」

数年前、このことを語った同じその人が 人々の中にあって神を代表するように委任 された。

敬愛する予言者ジョセフ・フィールディング・スミス以上に、長年にわたる献身的な奉仕を通じて備えられ、教会の大管長会に入った人はいない。ジョセフ・フィールディング・スミスの名は、彼の父であり、1501年から1918年にかけて教会を管理したジョセフ・F・スミスにちなんでつけられた。ジョセフ・フィールディング・スミスはまた、予言者ジョセフ・スミスの傍にあって不変不動に立ち続けた忠実なハイラム・スミスの孫である。

現代の指導者の偉大な経験をながめるときに、それには私たちほとんどの者の理解を、はるかに越えるものがある。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は十二使徒評議員の空席を満たすべく、1910年に32歳で召され、以来60年以上にわたって主イエス・キリストの使徒として忠実に働いた。またスミス大管長の重責を担い5年間大管長会の副管長を務めた。

教会幹部としての驚異的な記録に加えて他の分野でのスミス大管長の働きと貢献も教会史上ほとんど比類のないものである。スミス大管長は、49年の間教会歴史家として働き、教会の歴史と教義に関する特別な知識は、教会中で長年にわたって権威あるものとして認められてきた。1901年最初の著書「トップス・フィールドのアサエル・

スミス」を書いた。1970年には最後の著書となった「熱心に求めよ」が出版された。その間全部で25冊の著書を著わし,多くは福音を学ぶ者にとって家庭で欠かせないものになっている。その中には次のようなものがある。1922年刊行の「教会歴史粋」,1931年の「完成への道」,1936年の「人類の進歩」1938年の「予言者ジョセフ・スミスの教え」、1954年「人,その起源と行く末」,1954年から56年にかけて3巻発刊された「救いの教義」,1957年から66年にかけて5巻発刊された「福音の質疑応答」である。

スミス大管長は、1876年7月19日に生まれた。1898年4月、21歳のとき、最初の妻となったルイー・エミラ・シャートリフと結婚した。そして結婚後わずか1年後の1899年5月12日、スミス大管長は父親によって七十人に按手聖任され、翌日伝道地に向けて旅立った。当時、スミス大管長にとって、このような個人的な犠牲を払うことは、確かに今日の私たち程以上に容易ではなかった。しかし、スミス大管長はその召しを受け、2年間ノッチンガム・コンファレンス(英国中部)で働き、1901年6月に帰国した。

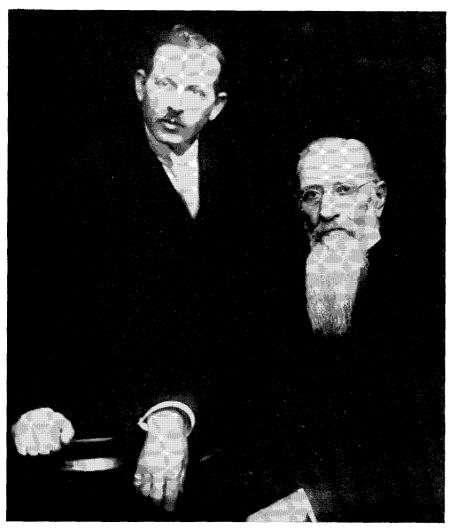
帰国後、スミス大管長は、教会歴史事務 局で働くことになり、生涯の大部分をそこ での仕事に捧げた。さらに1907年系図協会 の書記に任命された。

十二使徒評議員会会員になる2年前、スミス大管長は最初の妻ルイー・エミラを失った。また1908年11月2日、エセル・ジョージナ・レイノルズと結婚したが、彼女は1937年8月26日に亡くなった。最初の妻ルイー・エミラとの約10年間の結婚生活ではふたりの娘に恵まれていた。2度目の妻エ



セル・ジョージナは5人の息子と4人の娘の母となったが、伴侶としての生活は29年間であった。

スミス大管長は次に1938年4月12日ジェ



父子 2 代の神の予言者

シー・エバンズと結婚した。ジェシーは以 前タバナクル聖歌隊のアルト歌手で独唱者 であった。生来、陽気で快活なジェシーが 33年間大管長の傍らにあって、大管長を元 気づけ、愛と献身をもって大管長の世話を する姿には、全く美しいものがあった。ジ ェシーは生存中にスミス大管長が教会の大 管長になるのを目にし, 大管長が数多くの 教会の任務を帯びて旅行する際に同行し, 広く各地を旅した。大管長の厳しい旅行日 程に従うだけでなく、多くの国々で聖徒た ちの愛にあふれた歓迎会にも出席した。 1971年8月3日, ジェシーが心臓病で亡く なった折には、大勢の人々が、スミス大管 長の悲しみと寂しさを共にした。当時、ハ ロルド・B・リー副管長が、スミス大管長

に深い関心と同情を示すと、スミス大管長 は副管長に向かって、自分の義務を続けて 果たしてゆけるように、主が自分を強めて くださるだろうと自信をもって語り、「前 にもこのことは経験しているんだからね」 と語ったと言われる。

主の律法と原則を守るのに一歩も譲らない態度から、ある人々はスミス大管長を少々厳格な人であると思っている。しかしこれ以上にスミス大管長の真の性格を表わしているものはない。スミス大管長と親しい人々は、また大管長が他人のことを心から思いやり、非常に寛大で、同情心と愛と敵しの気持にたけた人であることを知っていた。

スミス大管長の多くの友人はよく次のよ

うに言った。「もしだれかに裁かれなければならないのなら、ジョセフ・フィールディングスミスに裁いてもらいたいものだ。」 1956年、十二使徒評議員たちは、当時十二使徒評議員会会長であったスミス大管長に賛辞を送った。他の事柄と合わせて次のように記されている。「……私たちがただ全教会員に知って欲しいと願うことは、ス



学位授与式に列席したスミス長老

ミス長老が心の優しい人で,不幸な人や困難にある人の福祉に大きな関心を寄せていたということである。スミス長老はあらゆる聖徒を愛しておられ,罪を犯した者のために絶えず祈っておられたのである。

そのすぐれた識別力で、最終決断をする際に、スミス長老にはふたつの基準だけがあるように思われる。「大管長会は何を望んでいるのか。神の王国にとって何が最善であるのか。」

スミス大管長の子息のひとりは,父親の 性格と,父親が内に秘めている偉大な力を 鋭く見ぬいて次のように言っている。

「子供のときに私たちは, 父親がよく次のように語るのを耳にしました。『主が私

たちのために、試練や苦難、罪を御自身で 負ってくださったことを、世の人々がただ 悟ってくれればよいのだが』と。こう語り ながらいつも父は目に涙をためるのです。

数年前、書斎で父とふたりきりでいると 父は瞑想にふけっていました。私は静けさ を破るのをちゅうちょしました。しばらく して父が口を開きました。『先週の木曜日 私は神殿で兄弟たち(教会幹部のこと)と 会ったが、お前もその場にいあわせていた 者ジョセフ・スミスを愛し、私の贖い主を愛するように教えられました。祖母のスミスについては全く覚えがありません。祖母は、女性のうちで最も気品のある人だったので、祖母について記憶がないのをいつも残念に思っています。しかし祖母スミスの良い姉妹で、私にとってはおばにあたるメリー・トンプソンのことは覚えています。少年の頃よくメリーおばさんのひざに座って予言者ジョセフ・スミスについて聞いたものです。そのことを本当に感謝しています。」

スミス大管長は小さいときから聖典を読む決心をした。姉妹のエディスの言葉によると、スミス大管長は10歳になるまでにモルモン経を2度読んだとのことである。

「まだアロン神権を受ける年齢にもなっ ていない頃、父は私に1冊のモルモン経を 手渡して読むように勧めました。私はこの ニーファイ人の記録を感謝して受け取り, 私に与えられた課題を果たそうと努めました。私はある聖句に深い感銘を覚え,それらは決して忘れえないものになっています。」

スミス大管長はまじめで研究熱心な性格 である一方、陽気な性格も持ち合わせてい た。当意即妙はユーモアのセンスもあって ごく自然に用いていた。

あるとき,スミス大管長は,自分で摘んだオリーブの実を弁当入れに詰めて,カリフォルニアでの大会から戻った。宝物を手



らよかったと思うよ。兄弟たちが、主であり救い主であるイエス・キリストへの愛を証するのを聞かせたかった。』そう言って頭をたれると、涙がほほを伝わって上着へ落ちました。それからしばらくして、頭を上げずにうなずきながら、『私は主であり救い主であるイエス・キリストを本当に愛している』と言いました。

主に対するスミス大管長の献身は幼いと きに始まった。

「私は母親のひざに抱かれながら、予言





にしたように喜んで,人々に分けるのも惜 しそうにしながら、兄弟のひとりに、「も いだばかりのオリーブの実を食べたことが あるかい」と尋ねた。スミス大管長の思い がけない犠牲者になったその兄弟は、いま まで経験したことがなかったので,ひとつ の実をとってがぶりと一口かんだ。それは 苦い経験であった。兄弟が、苦さのあまり 顔をしかめるのを見て、スミス大管長は無 邪気に尋ねた。「どうしたの? まずかっ た? もうひとつこっちのを試してごらん よ。」

最上の描写は, その人と生活を共にした

人によって語られるのである。1932年,ス ミス大管長の妻エセルはこう語っている。

「夫について私が知っていることをお話 しします。私は時々思うのです。夫に会う 人は、『彼はとてもよい人でまじめで、固 い人だ』と言うのですが、皆さんは公けの 場所での夫についてだけ言っていると思う のです。でも、皆さんが知っている私の夫 と私が知っている夫とは、とても違ってい ます。私の知っている夫は優しく、愛情深 い夫であり、家族を幸せにすることを生涯 の大志とする父親であり, そうするために 自分を投げうって努力する人なのです。夫



は、むずかる子供をあやして寝かしつけ、 ベットの傍らで、幼い子供に休む前の話を してあげるような人です。 疲れていたり, また忙しいときでも, 年上の子供が学校の めんどうな宿題を解くのを, いつも夜遅く まで,また朝早く起きて手伝っていまし た。病気になると、私の知っている夫は病 人の顔を優しく見つめながら給仕をしてく れる人です。家族の者が助けを呼び求める のは父親で,父親の存在はどんな病気にも きく万能薬です。傷に包帯を巻いてくれる その手は, 私の知っている夫の手であり, 苦しんでいる者に勇気を与えてくれるその 腕も、間違ったときに優しく忠告してくれ るその声も, 私の知っている夫のそれなの です。やがて皆は、夫を喜ばせることを幸 せに思うようになるのです。

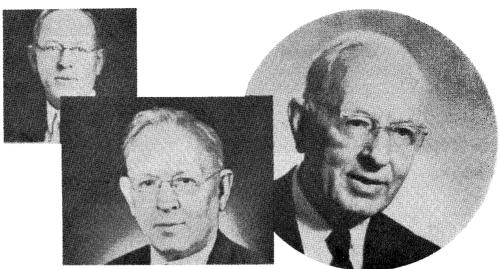
私の知っている夫は一番礼儀正しい人で



ジョセフ・フィールディング・スミス 長老と息子たち(1940年撮影)

ジョセフ・フィールディング・スミスの略歴			
1876年	年齢		
7月19日		第6代大管長の息子としてソルトレーク市に生まれる。	
1896	20	祝福師の祝福で「兄弟たちと評議員会の座に着き、人々の中で管	
l		理する義務を負うであろう」と宣言される。	
1897	21	長老に按手聖任される。	
1898	22	ルイー・エミラ・シャートリフと結婚。(夫人は1908年ふたりの	
		娘を残して死去)	
1899~1902	$22 \sim 24$	英国で伝道。	
1901	25	教会歴史事務局の書記となる。	
1908	32	エセル・ジョージナ・レイノルズと結婚。(夫人は5人の息子と	
		4 人の娘を生んで,1937年死去)	
1910	33	父親により使徒に按手聖任される。	
1921	44	教会歴史記録者となる。	
1934	57	系図協会会長となる。	
1938	61	ジェシー・エバンズと結婚。(夫人は1971年に死去)	
1939	63	ヨーロッパへ旅行。第2次世界大戦勃発時,ドイツに滞在。ヨー	
		ロッパからの全宣教師の引揚げを指揮する。	
1945	68	ソルトレーク神殿長となる。	
1951	74	十二使徒評議員会会長となる。	
1965	89	デビッド・O・マッケイ大管長の副管長となる。	
1970	93	大管長に支持される。	
1971	95	95歳の誕生日を迎える。英国マンチェスターで開かれた教会初の	
		地区総大会を管理する。	
1972年 7月2日	95	死去	





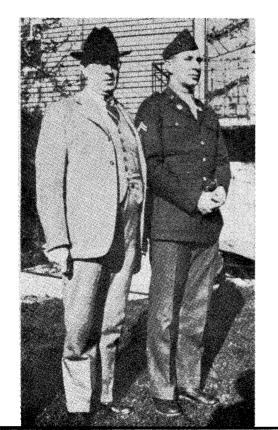
もしだれかに不公平なことをしたと感じると、遠いところへも出かけて行き、愛ある言葉で話しかけ、親切な行ないを示してその人の心の痛手を消し去るのです。夫は喜んで若い人を家へ招き、スポーツはもちろんのこと若い人が興味を抱いているものならなんであれ、その日の話題として若い人たちと話し合っています。そのときほど、幸福そうに見えることはありません。夫は良い話を楽しみ、ユーモアを示す場をすばやく見抜いて人を笑わせ、また笑われる人

になり、いつも健全な活動には喜んで参加する人なのです。私の知っている夫は、寛大で不平を言わず、思いやりがあって、思慮深く、同情心があって、愛する者のために生活を最高の喜びに高めるように、自分の内なる力を尽くしてあらゆることをなす人です。それが、私の知っている夫です。」以上の寸描は、スミス大管長の性格を知る上で、ある考え方を示してくれている。だが、スミス大管長が最も長く人々に記憶されるのは、福音の学徒としてであろう。

スミス長老とその息子 レウィス (第二次世界大戦で戦 死) 教会のある総大会で、スミス大管長は次の ように語っている。

「生涯を通じて、私は福音の原則を学び それについて熟考し、主の律法にそって生 きることを追い求めてきた。その結果、主 への愛、主の御業への愛、また地上での主 の目的をさらに追い求めるあらゆる人への 愛が、心のうちに湧きあがってくるように なった。

私たちは皆、さらに福音を研究し、聖典を読み、教会について良き書を読む必要がある。スミス大管長は私たちに模範を示してくださり、もし私たちが研究し、熟考するなら、「その結果、主への愛、主の御業への愛が、心のうちに湧きあがってくる」と告げておられるのである。





大管長会 スミス大管長、タナー副管長、リー副管長

3つの誓約

十二使徒評議員補助 L・トム・ペリー長老

私は3つの誓約をしたい。第一に愛し支持してくれる最愛の妻に。今までの25年間のようにこれからも私を助けてくれるならば、私はどんな責任にも立派に応えられるだろう。

第二に愛する3人の子供たち、バーバラ、リー、ゲイに。私は家庭にあって、神権指導者として主から霊感を受けるにふさわしい生活をするよう努めよう。

そして最後に、私の支持するリー大管長と偉大な副管長、十二使徒評議員会に。その大きな荷をになう仕事を、私にも手伝わせていただきたい。

この教会は末日に建てられたイエス・キリストの教会である。そこから大きな力を与えられているゆえに、私はこの証があることを感謝している。これらのことをイエス・キリストの御名によりへりくだって申しあげる。アーメン。

救い主に仕える

十二使徒評議員会補助 **O•**レスリー**•**ストーン長老

愛する兄弟姉妹,友人たちの中にいるというのに,なぜ私の身は震えるのだろうか。皆様の前に座っておられる これらの兄弟たちほどに私を愛してくださる方はいない。私も彼らを心より 愛している。彼らのほとんどがかつて 私の家を訪れ、共にひとときを過ごし 祝福を残してくださった。

16年ほど前にリー大管長からステーキ部長に召されたときの、帰途での彼の言葉は今も覚えている。「ストーンステーキ部長、やがて解任される日のために、今から準備していただきたいと思います」と。私はいつも、兄弟たちが私を解任するときの準備をしていたことを、今はっきり申しあげる。しかし先日大管長から召しを受けたときには、彼はそれについてひと言も言わなかった。あとでこの召しが一生のものであることを告げられたのである。

私は皆様と教会幹部の兄弟たちに, 謙遜に感謝の念をもって,時間と体力 とあらゆる手段を講じて王国建設のた めに喜び仕えることを確言したい。

私たちがこの世で多くの誘惑に遭う ことを知っておられた救い主は、ある ときこう言われた。「まず神の国と神 の義とを求めなさい。そうすれば、こ れらのものは、すべて添えて与えられ るであろう。」(マタイ6:33)

私たちは家庭の中でこの戒めに従お うと努力してきた。伝道部長となって いるふたりの息子たちは、私が彼らの 将来について話したときに、この聖句 を引用した。

今,私は皆さまに長老見込み会員のプログラムに心を留めていただきたいと思う。その理由をお話したい。私はアイダホ州のブラックフットで長老見込み会員のときに今の妻に会った。そしてしばらくの交際ののち,彼女が私の理想の女性であると考えた。(そして彼女にそのことを話した。)そのとき彼女ははっきりした言葉で,私が「もっと進歩」しなくてはならないことを

教えてくれた。彼女の考える結婚は神 殿結婚以外になかったのである。

私は進歩して長老に聖任され、神殿 推薦状を受けた。そして私たちは1924 年4月23日ソルトレーク神殿で今も永 世にも結び固められた。私は永遠の伴 侶と、14人の孫を含む私の家族に心か ら感謝している。妻の誕生日であった 昨日、私は教会幹部として支持された。

人生の最大の幸福は、福音に従い、 救い主に仕えるときにやって来ること を証し、小さなできごとをお話したい。

およそ25年ほど前,私は新たに事業 を始めた。事業を黒字に持ち込むこと が困難であり,赤字操業を好まない私 は,ひざまずいて天父に祈った。そし てこの事業を成功させるための霊感と 導きを恵んでくださるならば,時間と 手段を惜しまず,王国建設のために主 に仕えると誓約した。

主は私たちを豊かに祝福された。そして今私はリー大管長、タナー副管長 ロムニー副管長、そして兄弟たち全員 に、最善の努力を尽くしてこの新しい 召しを遂行することを誓約する。私は 主を愛している。そのため、主に仕え たいと思う。

ステーキ部長の職を受けた日に, リー大管長はある聖句を引用された。それは常に私の心を打つものであった。 ここでその大好きな聖句を引用したい

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5,6)

いつもこのようにできることを, イ エス・キリストの御名により祈るもの である。アーメン。

質疑応答

非常に才能があって裕福な家族が福音を受け入れる備 えをするのをどのように手伝えるでしょうか。

解答 ペダーソン

釣合いのとれた幸せな生活を続けるために満たさなければならない、根本的な必要や欲求がすべての人にあります。裕福であろうと貧しかろうと、あらゆる人が未解決の問題や困難、また神への親近感をもっています。ちょうど食物や衣類がこの世で必要なように、今あげた事柄も充足される必要があります。たとえある人が幸福そうで、裕福で才能があるように思えても、福音なしではまだ完全でありません。人が幸せであるためには、生活のむなしさが満たされねばなりません。

ほとんどの人は、生来心の最も奥底に考えを秘めているので、あなたは容易にはその人の必要としているものや欲求を知ることができないかもしれません。しかし新しい成長の経験を経るときには、必要としているものが表面近くに浮かび出てくるものです。結婚、子供の誕生、新しい社会への移転、病気、愛する人の死といった事態にあうと、人々は、平常のときよりも、すすんで天父について学ばうという気持になるようです。

神は次のように言われました。「事なき時に、彼らわが助言を軽んじたり。されど事ある時は、彼ら止むを得ずわれを探し求む。」 (教義と聖約 101:8)

福音について話す時期が熟したときに正しい答えが与えられるよう、聖典を学び、祈りをもって備えなさい。誠実な友人、隣人であることから始めることができます。友人や隣人が休暇で出かけるようなとき、芝生に水をやったり、ペットの世話をしてあげなさい。パンを焼いたら、隣の人に試食してもらいなさい。「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ、小なる事より偉大なる事起る。」(教義と聖約64:33) 心にとめておくべき大切なことは、何をするにしても、謙遜に誠意をもってしなけれればならないということです。ヴァンサン・ド・ポールは言っています。「貧しい人々を心から愛さなければならない。さもないと、その人々はパンを与えられることをきらうであろう。」

人を福音へ改宗させるのは、まさしく聖霊です。私たちは、神が 人に不死不滅と永遠の生命をもたらされるのを手伝う、単なる道具 にすぎないのです。神が望まれるときに、神の望まれる通り話せる よう、霊感を受けられる生活をしなければなりません。だれであっ ても「みたま」による証なしに教会へ入る人は、砂の上に家を建てる人の部類に入るのです。神はすべての教会員に霊的な賜物をお与えくださいました。その霊的な賜物は、養われてゆくべきものであり、福音の模範に従って生活し、また人に確信を与えようとする際に「みたま」の力で語れるように教会員を助けてくれるものです。私たちは祈りの中で、個人的に、友人や隣人を思い浮かべて祈るべきです。私たちはできるだけ、福音の原則に密着して生活しなければなりません。そうするときに私たちは、良い模範となり、正しいことが言えるように霊感を受けられるのです。

「誰にても汝らを受け入るる者には、われもまたそこにあらん。 そは、われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右 に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、 またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約84:88; 49:27参照) 神はすでに私たちの前に先立って行かれ、私たちが 霊の賜物を行使できるように機会を備えておられます。「およそ人 何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし、た だすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誡命に従 わざる者に神の怒りあり。」(教義と聖約59:21) 神はあなたの隣 人や友人のことを心にかけておられ; 回復された福音の神聖さをそ の人々に示そうと切望しておられるのです。神はまた、あらゆる人 々の奥深く内在している考えや欲求をご存じであり、あなたが自分 自身を準備し、友情を培ってゆくなら、友人や隣人に話す機会が訪 れます。もしあなたが霊感を受けるなら、聖なる魂、切望している 魂、満たされない飢えている魂に触れ、「みたま」によって説かれ る福音によりそれを満たすことができるのです。

多くの自称宣教師は、そのような機会があるにもかかわらず、論理的にあるいは合理的に説明しようとして失敗しています。そのような人は、友情をこわすようなことを言わないか、また相手の感情を害さないかと恐れます。主はこの点について戒めておられます。「されど汝らの中、或る人々はわが悦ぶところにあらず。そは彼ら人を怖れて、己が口を開かんとせずしてわが与えたる才能をかくすによる。禍なるかな、かかる人々よ。わが怒りは彼らに向いて燃ゆればなり。」(教義と聖約60:2) 私たちは日常の軽い会話で、人に多くの良い物をもたらすことはめったにありません。私たちは霊感を受けたときに、聖なる「みたま」が私たちの心に強く訴えることを語れるようにならなければなりません。たとえ、それが時には困難なように思えたり、場違いのように思えても、心の清い人々の魂に触れるのです。

友人に理解してもらうために用意されたパンフレットや書物がたくさんあります。家庭にそれらをいくつか用意しておくのはよいことです。そうすれば機会が訪れたときに、友人にそれをあげることができます。もし適切に準備するならば、福音を知って受け入れる人々の心にもたらされる変化と喜びを目にすることによって、毎年豊かな霊的な経験を味わうことができるでしょう。

ハーシェル・ペダーソン: 伝覧部代表

モルモン ユーモア

いつになく長いプログラムの最中、2 歳になる娘が落ちつかなくなってきた ので、行儀よくしていないと外に連れ 出してお尻を打ちますよと 言いまし た。ところが---まあ、どうでしょ う。10分間程静かにしていましたが、 耳元に口を寄せてこうささやきました の。「外へ連れてって、そしたらママ ――私のお尻打たしてあげる。」

ボニー・スクワップ、ユタ州ソルトレ

日曜学校の教師が、クラスで罪と祈り と赦しを求めることについてレッスン をしていました。

レッスンが終わって, 教師はひとりの 小さな女の子に質問しました。「さあ、 きょうはすばらしいことを習いました ね。それでは、私たちが神様に赦しを 求める前に,何をしなくてはいけませ んか。」女の子は自信をもってこう答 えました。「罪を犯さなければなりま せん。」



家庭で開かれた『タレントの夕べ』 で8歳になる息子が弾くバイオリンの 音に, 父親はまったくのところいらい らしていました。家族で飼っている犬 は、苦悶に堪えかねたように、ほえ続 けています。数分間の辛抱の後, 父親 は早口で言いました。

「かわいい息子よ, 何か他の曲をやっ てくれないか。犬の知らないやつをね / 1

ドイツ西部伝道部にいるたいそう熱心な宣教師は、何 とかして福音を早く広めたいと思っていました。ある 日、フィルムの現像をするため、写真屋に郵送する封 筒の上に「黄金の質問」を書きしたためました。「モ ルモンについて、何か知っていらっしゃいますか?」 現像が完成し、彼のもとにフィルムが戻って来まし

た。見ると、自分の書いたそのわきに、こう書いてあ りました。「モルモン教会についてのあなたからの質 問の件ですが、ユタ州ソルトレーク市にある本部の方 へお手紙するようお勧めいたします。」

デブラ・ガンサー, ユタ州プロボ

アイルランド人:君, 新聞で読んだべ ルファストの暴動のこと, 信じるか い。僕はそこで仕事をしているんだ。 それに, 人生の妙味というものを味わ ってるんだ。

イギリス人:何の仕事をしているのか

アイルランド人:なーにね,パン屋の 車に乗って、一番後から鉄砲を打って いるのさ。

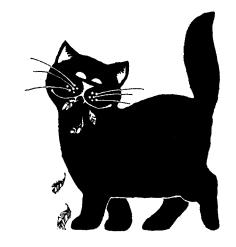
小説家:「聞いてくれたまえ。とうと う僕は書いたんだよ。どんな出版会社 でも、喜んで引き受けてくれるやつを ね。」

友人:「ほう, そりゃあいったい, ど んな物だね。」

小説家:「小切手さ。1年間予約の。」

特別に長い聖餐会の最中, 4歳になる 男の子が席を立ち、なかなか話をやめ ない3番目の話し手を前にして、教会 中のみんなに聞こえるような声で言い ました。「ママ、日曜日はまだ続いて るの?」

G・S・ブリュワー ユタ州オグデン



小さな女の子シンディーは, 飼い猫 のフランシスが小鳥をつかまえ、食べ てしまったのを見て、驚いた様子でし た。「ルーシーおばさん。」彼女は尋ね ました。「猫が小鳥を食べたら,小鳥 はすぐに天国へ行ってしまうの? そ れとも猫の腹の中にいるから、猫が死 ぬまで待っていなければいけないのか しら。」

ラス・W・アンドリュー カリフォルニア州バリーセンター

日曜学校の教師が、次週は特別なレッ スンをすると発表した。その間に生徒 のみんなは、レッスンに備え、マルコ の17章をぜひ読んでくるようとの宿題 を与えられた。

1週間が経ち、教師はレッスンの始ま る前, 宿題をしてきた人が何人いるか 手を上げさせた。クラスのほとんどの 人が手を上げた。「まったく私の思っ た通りだ。」教師は言った。

「きょうのレッスンは正直ということ についてだ。マルコ伝を見たまえ。16 章までしかないのだ。」

私の証

「あなたを お待ちしています」

上 田 忠 義 熊本第2支部

私の仕事は他の会社の信用状態,銀 行関係などの調査や回収問題の整理, 取立て,また民事訴訟を裁判所で争う というようなものであり,十数年間これに精力を注いできたわけです。悪人 といわれるような人々ばかりを相手に し,これまでずっと腐廃している社会 に憤りを感じており,裁判というもの に慣れてしまっている自分をも見いだ すようになっていました。

昨年10月26日のこと、妻が車で送っ て欲しいと申しますので、運転して行 ったところ、着いた先がこの末日聖徒 イエス・キリスト教会でした。教会の 前にいた4人の男の人が「よくいらっ しゃいました。お元気でしたか」とま ことにニコニコと心から歓迎してくれ ました。今まで一度も会ったことのな いような,全く邪心のない清い心に, またその言葉,態度に何かしら心を打 たれるものがありました。初めて訪れ た教会なのでどんな所か知りたいと興 味を覚え,軽い気持で足を踏み入れま した。宣教師や多くの兄弟姉妹の暖か い心に接し、こんなにいい人がいたん だなあと感心させられたわけです。

11月になり、宣教師から家庭集会を受けるようになりました。

話は前後しますが、それより少し前のこと、妻が私の目を盗むようにして本を読んでおります。何だろうと思って台所に立ったすきに手に取ってみると、モルモン経と書いてあります。キリスト教にもお経の本があるのかなあと驚いてしまいました。というのもモルモン経と読めずモルモン経と読んでしまったからなんです。

何げなくページをくっていると、ニーファイ第3書13章のところに『汝らもし人の罪を赦さば、汝らの天の御父もまた汝らの罪を赦したもうべし。されど汝らもし人の罪を赦さずば、汝らの父もまた汝らの罪を赦したまわじ。』という言葉が目に入りました。私の心に響く言葉でした。お経の本と思っていたのがこのようなことが書いてあったので、急に関心が湧いてきて、その日から妻が炊事などをやっている時に少しずつ隠れるようにしてモルモン経を読み始めたのです。

それからしばらくして、妻は家庭集 会で宣教師から、「モルモン経を読ん でますか」と尋ねられて、「近ごろは 主人の方が先に読むものですから と んと読む暇がありません」と答えたそうです。

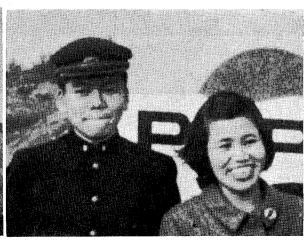
2,3日後,私へのプレゼントとしてモルモン経が手渡されました。読んでいくと心に響く言葉がたくさん載っています。今にして思えば神様の御言葉を軽い気持で受け取っていたことをはずかしく思います。そして少しでも理解できるようにとの望みから自宅に宣教師の方々を招いて勉強会を開いたりしました。

バプテスマの面接を受けた時,信仰について話し合い,本当の信仰がどんなものなのかもわからず,信仰といえるほどの信仰も持っていないのにバプテスマを受ける資格があるんでしょうかと尋ねました。宣教師が答えます。

「この教会はあなたをお待ちしております。」 私はこのひとことで決心した わけです。

宣教師や会員の良い模範は私の心を 鞭打つものがありました。このような 人たちがもっと増えれば私の取立ての 仕事がなくなって失業するかもしれま せんが、人類の幸福のためひとでりも 多くの人にこの福音を伝えなければと 決心しました。主が私たちを見守り、 保証人として助け、導いてくれるとし





みじみわかってきました。

そして1月14日, バプテスマを受けました。

バプテスマを受けて帰ろうとしていたころ、福岡の渡辺伝道部長からわざわざ電話をいただきました。「上田兄弟おめでとう、しっかり勉強してください。」このお電話がどれほど私に感激を与えてくれたことか知れません。

私の証

「どこから この力が湧くのか」

杉 山 量 造 久留米支部

数年前,成田空港建設闘争の時,私 が教べんを執っている高校からも6名 の生徒が参加し,警察につかまるとい う事件が起きました。当時,生活指導 を担当しておりましたので,驚いて東 京まで迎えに参りました。親や学校の 心配,不安,その他大きな問題をも抱 えています。

彼らとは何度も何度も話し合いました。彼らの考えている生活態度は立派なもので、ただ政治に対する不満とか社会悪に対する彼らの純粋な意見で一直線に走ろうとしてるだけなのです。しかしいくら話しても平行線をたどるだけでした。また「親が心配するからてのようなことをしてはいけないんじゃないのかな」と尋ねると、「親子の

関係を断ち切らなければできません」ときっぱり言い切るわけです。これに対して言葉を失ってしまった私は、どうしたら彼らの考え方を正しい方向に導くことができるか、その方法の見つからないままに追い込まれた状態になり、非常に悩んでいました。

そんな状態でいた昨年の7月、私が ひとりで家にいた時, 突然宣教師の訪 間を受けました。その時は2,3私が 質問して次に会う約束をしただけでし たが、2回目に会って話をしているう ちに新しい疑問が湧いてきました。私 が教えている牛徒達とあまり年の変わ らないこんなに若い人たちが、アメリ カやカナダなどからなぜ日本に来てい るのか, 宗教のためにこのようなこと が本当にでき得るのか, どこからこの ような力が湧いて来るのか、それは私 にとって全然予想もつかないものでし た。ですから盲教師に興味を覚えたの と, それ以上に, 不安定な私の心をさ さえてくれる何かを見つけたい, また 初めて宗教というものを考えたいとい う時期にあり, 家庭集会を受け始めま した。最初は私の方が彼らを指導して あげようと思っておりましたのが、し だいに立場が逆転しているのに気づい てきました。そして集会では, 私の悩 みを聞いてもらったり、 宗教に対する 不信感、私の正直な気持を言い、それ らについていろんなことを教えてもら うのが日課になっていました。さらに 週1度では足りず、私の方から教会へ 出かけて話をするようになりました。

今のままでは私自身が行きづまって



しまい、もうこれ以上は生きることも できないという心境にありましたので 何かやらなければと強く感じ, 宣教師 達の勧めもあって、タバコをやめよう と決心しました。20年以上も吸い続け てきたものをやめるには大きな努力が 必要なことは,何度もそう決心して失 敗した経験からわかっていましたが, 過去とのつながりを断つため、また私 の未来を切り開くための第一歩にしよ うと精一杯に務めました。しかし言う は易く行なうは難しで,初めのうちは, 約束をした以上宣教師の前では,心の うちで早く帰ってくれないかなと思い ながら何とか我慢して, 長老たちが帰 るいなやタバコをくわえていました。 このようなことを繰り返していました けれどもこのへんでどうにかしなけれ ば、また私の意志を試すためにも完全 にやめようとさらに頑張りました。途 中で中毒症状に陥り, ひどく苦しみな がらも、私のためにお祈りをしてもら って集会を続けました。その努力の結 果, 1カ月後には完全にやめることが できました。以来, いらいらや行きづ まりなどの毒素が私のからだからすっ かり取り除かれてしまったことがはっ

きりわかります。今, 御霊の導きを受けてこのことを証できますこと, 幸福に思っております。

私がとのように神様の子として召されるまでの大きな力,それは宣教師です。彼らには何度いやなことを質問したり、言ったりしたかしれません。それでも彼らの広い心は決して腹を立てたり、私を責めたりしたことは一度もありませんでした。私たち家族にとって彼らはただ普通の人ではありません。彼らは特別な召しを携えてきかけ与えるために来た神の使いです。その中に生活できますことを心から感謝しております。アーメン。

私の証

「神様の

子供であれば」

武 田 馨 宮崎支部

私は、教会に入る資格はないと何度 も宣教師の方に申し上げました。なぜ なら知恵の言葉を守ることができない からです。お酒、それは大好物という より、むしろ私にとって恋人のような ものであり、一生離れられない間柄だ と、私はもちろん妻も当然のことのよ うに思ってきました。そんな私がどう いうわけでこの教会に入る決心をした か証したいと思います。

教会を知る前の私は、これといって 目的もなくただ日を送っていました。 それは本当に空虚なものです。そして いつも張りのある充実した生活をした いと望んでおりました。しかしこれと いって私の心を満たし、活力を与えて くれるようなものを見いだせないでい たのです。

そんな折り、私の家に突然ふたりの 宣教師の方が訪問されたのです。そし て毎週水曜の晩には家庭集会を受ける ようになりました。その中で教会のこ とについてお話を聞きましたが、それ らはよく理解することができました。 しかしどうしても受け入れられないの が知恵の言葉です。宣教師たちは1週 間頑張って下さいと申します。やって みようと思いましたが、1週間どころ か1日たりとも頑張ることができなかったのです。

そうしているうちに、私の体の具合がおかしくなり、肝臓を少し悪くしてしまいました。また、ある雨あがりにひとりの男の人が背広を着たようにうっぱまみれになって地面にはうようにうっぱらって錯乱していたんでしょう。これには、さすがの私もとのような醜態を見せるのかと考えさせられました。きっと神様が、今後おまえがアルコールを飲むなら同じような姿になるんだとの戒めを与えてくれたのでしょう。これがきっかけとなって、あんなにお酒と別れるのがいやだった私もやっぱ

りアルコールは良くないのかなあと思 うようになりました。

レッスンが進むにつれ、この教会が 確かに真の教会であり、私たちは神様 の子供であると信じられるようになり ました。神様の子供であれば神様のみ こころに添った生き方をするのが当然 であり、みこころに添うということは 当然知恵の言葉を守っていかなければ なりません。これが完全にお酒をやめ



る決心をした理由なのです。

このようにして昨年12月24日,私たち家族は8歳に満たない下の子をのぞいて全員がバプテスマを受けました。

多くの兄弟、姉妹から祝福されて、 今はこの教会に入ってほんとうに良かったと思います。毎日の生活や仕事の 上にも何か張りが出てくるのです。前の生活とはうって変わって充実した毎日を送ることができ、心にゆとりと、 感謝が湧いてきます。心から感謝しています。イエス・キリストの御名によって証しました。アーメン。

1972年度 統計記録

教会ユニット	補助組織登録会員数
ステーキ部数 592	扶 助 協 会 715,071
ワード部数4,365	日曜学校2,442,033
ステーキ部内,独立支部数 1,029	アロン神権YMM I A······ 164, 925
ワード部,独立支部合計 5,394	アロン神権 YWM I A······ 186, 393
	初等協会478,769
伝 道 部 数··································	
伝道部内 支部数······ 1,891	一般統計
	出生率(1,000人当り) 26.43
教 会 員 数	結婚率(1,000人当り) 15.39
ステーキ部 2,716,769	死亡率(1,000人当り)4.74
伝 道 部 511,021	
合 計3,227,790	福祉
	被援助者数 102,961
神 権	雇用者数14,502
アロン神権者	労働奉仕日数累計* 187,800
執 事······ 139, 194	福祉操業日数累計** 7,140
教 師	
祭 司	系 図 協 会
合 計 401,229	身代りの神殿儀式 (エンダウメント)
	のために手続きのとられた名前の数 2,181,918
メルケゼデク神権者	年度内に20カ国においてマイクロフィルムに収録
長 老 264,465	された系図記録は、23,046,000mの長さとなり、
七 十 人24,229	これは 300 ページの本で3, 607, 002冊に相当する。
大 祭 司93,344	
合 計 382,037	神殿の儀式
	15の神殿で執行された儀式数
アロン神権者,メルケゼデク神権者総計 783,266	生 者68,376
(年度内増加数 30,216名)	死 者 9,046,194
	儀式総数9,114,570
会員数の増加度	
ステーキ部,伝道部内 幼児祝福数69,695	教 会 の 学 校 (1971-72年度)
ステーキ部,伝道部内 子供のバプテスマ数…58, 343	在 籍 者 数(インスティチュート,セミナ
ステーキ部,伝道部内 求道者のバプテスマ数	リーを含む) 257,388
91, 237	

